

審査意見への対応を記載した書類（6月）

（目次）観光学研究科 観光地域マネジメント専攻

【設置の趣旨・目的等】

1. 3つのポリシー（ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー及びアドミッション・ポリシーをいう。以下同じ。）について、例えば、ディプロマ・ポリシーの4つの項目に対応する内容が、カリキュラム・ポリシーに含まれているとは見受けられず、「設置の趣旨等を記載した書類（資料）」の資料7（専門職大学のDP・CP・AP）を見ても3つのポリシーがどのような関係にあるかが判然としない。3つのポリシーのそれぞれの項目について、関係図等を活用して関係性を明らかにするとともに、必要に応じて適切に改めること。（是正事項） 2
2. 学則に記載されている卒業に必要な単位数や学位名称について、「設置の趣旨等を記載した書類」や基本計画書に記載されているものと異なるなど、設置計画の内容が学則に適切に反映されていないように見受けられることから、網羅的に見直すとともに必要に応じて適切に改めること。（是正事項） 7

【教育課程等】

3. 審査意見1のとおり、3つのポリシーの妥当性及び整合性に疑義があるため、適切なディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーに基づき、適切に編成されていることを明確に説明するとともに、必要に応じて適切に改めること。（是正事項） 11
4. 審査意見3のとおり、教育課程の妥当性が判断することができず、例えば、「地域共創科目」の位置づけが不明確であるとともに、DP3で掲げる「地域社会との協働的関係性構築能力」を具体的に身につける授業科目が1単位科目の「グループワーク手法」のみであると見受けられ、この能力を十分に養成する教育課程となっているかについて疑義がある。「地域共創科目」の位置づけを説明するとともに、DP3に関連する授業科目を挙げつつ、DP3を達成するために適切な教育課程となっていることを説明すること。また、同様の観点から他の授業科目についても全体的に授業科目の追加や授業科目の内容の見直しを含め、必要に応じて適切に改めること。（是正事項） 19

【設置の趣旨・目的等】

(是正事項) 観光学研究科 観光地域マネジメント専攻

1. 3つのポリシー（ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー及びアドミッション・ポリシーをいう。以下同じ。）について、例えば、ディプロマ・ポリシーの4つの項目に対応する内容が、カリキュラム・ポリシーに含まれているとは見受けられず、「設置の趣旨等を記載した書類（資料）」の資料7（専門職大学のDP・CP・AP）を見ても3つのポリシーがどのような関係にあるかが判然としない。3つのポリシーのそれぞれの項目について、関係図等を活用して関係性を明らかにするとともに、必要に応じて適切に改めること。

(対応)

審査意見1における「資料7（専門職大学のDP・CP・AP）を見ても3つのポリシーがどのような関係にあるかが判然としない」との指摘と審査意見3及び4の指摘を踏まえ、カリキュラム・ポリシーの構成を見直すことにより3つのポリシーの関係性及び教育課程全体の体系性を強化する。また、これらを【別添1】専門職大学院のDP・CP・AP（「設置の趣旨等を記載した書類」資料7と同様、以下同じ。）の関係図を活用して明確に示すとともに、設置の趣旨等を記載した書類の内容を修正する。

<3つのポリシーの関係性>

ディプロマ・ポリシーは、観光地域マネジメント専攻が育成する観光地域共創人材において求められる3つの能力（DP2「地域価値の創造実現能力」、DP3「地域社会との協働的関係性構築能力」、DP4「データ分析に基づく戦略的意思決定能力」）及びその基盤となるDP1「観光倫理と持続可能性の理解」により構成している。

ディプロマ・ポリシーと対応し、教育課程を具体化するためのカリキュラム・ポリシーについては、教育課程の体系性をより明確にするため、CP1「基盤科目」、CP2「専門科目」、CP3「実践科目」と構成を改める。ディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシーとの対応関係は、特に強い関係性のある部分を示すと、DP1「観光倫理と持続可能性の理解」とCP1「基盤科目」、DP2「地域価値の創造実現能力」とCP1「基盤科目」及びCP2「専門科目」、DP3「地域社会との協働的関係性構築能力」とCP2「専門科目」、DP4「データ分析に基づく戦略的意思決定能力」とCP3「実践科目」となる。これらの関係性は【別添1】の関係図に太線で示している。

アドミッション・ポリシーでは専門職大学院の入学者に期待される人物像を示しており、AP1「志望分野の基礎能力・実践知」、AP2「地域の発展に寄与する使命感」、AP3「問題意識」である。これらとカリキュラム・ポリシーで示す教育課程は、AP1「志望分野の基礎能力・実践知」がCP1「基盤科目」、CP2「専門科目」及びCP3「実践科目」と強く関係して

おり、AP2「地域の発展に寄与する使命感」と CP2「専門科目」及び CP3「実践科目」、AP3「問題意識」と CP2「専門科目」及び CP3「実践科目」においても同様の関係性がある。これらの関係性についても【別添1】の関係図に点線で示している。

<カリキュラム・ポリシーの構成の見直し>

教育課程の体系性をより明確かつわかりやすくするため、カリキュラム・ポリシーの構成を CP1「基盤科目」、CP2「専門科目」、CP3「実践科目」と改める。

- ・ CP1「基盤科目」には、DP1「観光倫理と持続可能性の理解」が観光地域マネジメントの学修の基盤をなすという考えから、DP1 に対応する地域課題や社会課題を理解する科目群を配置する。また、DP2「地域価値の創造実現能力」の基盤として地域資源の社会的価値を見出す過程を学ぶ科目群を配置する。加えて、DP3「地域社会との協働的関係性構築能力」及び DP4「データ分析に基づく戦略的意思決定能力」を身につけるにあたっての基礎的な知識・能力を学ぶ科目群についても CP1「基盤科目」に配置することとし、CP1の表現を「地域課題や社会課題を理解し、地域の資源から社会的価値を見出すとともに、それらに対応した観光地域マネジメントに必要となる基礎的な概念・知識・能力を身につけるための基盤科目を置く。」と改める。
- ・ CP2「専門科目」は、CP1「基盤科目」での学びを土台として地域の観光資源を種々の観光商品として価値化するための科目群を配置し、DP2「地域価値の創造実現能力」を身につけることを目指している。また、その過程において DP3「地域社会との協働的関係性構築能力」が必要となることから DP3 に対応する科目群をあわせて配置する。これらを踏まえて、CP2 の表現を「地域社会との協働により、地域固有の観光資源を地域の社会的価値として磨き上げ、高付加価値・革新的な観光地域の実現を目指すための専門的な知識を学ぶ専門科目を置く。」と改める。
- ・ CP3「実践科目」は、DP4「データ分析に基づく戦略的意思決定能力」と特に関係する科目群であり、戦略的意思決定で必要となるデータ分析を学ぶ科目群と、実地におけるプロジェクトの実践を通じて DP2「地域価値の創造実現能力」と DP3「地域社会との協働的関係性構築能力」の実際及びそれらを総合する戦略的意思決定を学ぶ科目群とで構成される。このことを明確にするため、「観光地域マネジメントに必要となる情報の収集・整理・分析のための知識・能力を身につけ、実地におけるプロジェクトの実践を通じて観光地域の戦略的意思決定を総合的に学ぶ実践科目を置く。」と表現を改める。
- ・ この見直しにともない、審査意見4において位置づけが不明確であるとされた「地域共創科目」については、教育課程全体をとおして順序立てて身につけていくものであり、学生にとってもわかりやすくなるよう、その内容及び授業科目を CP1「基盤科目」と CP2「専門科目」に分割して再配置している。

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類 (18 ページ)

新	旧
<p>3 教育課程の編成の考え方及び特色</p> <p>(2) 修了要件</p> <p>基盤科目 <u>8</u> 単位以上、専門科目 <u>10</u> 単位以上、実践科目 20 単位、合計 38 単位以上を修得すること。</p> <p>3 教育課程の編成の考え方及び特色</p> <p>(3) 教育課程の授業科目区分および授業科目【資料 7、8】</p> <p>1) カリキュラムポリシー</p> <p>本専攻の教育課程では、実務家教員の採用によって高度な専門的マネジメント能力を涵養すると同時に、本学の持つ観光学の学術基盤にのった専門教育を行うこととし、次のような考え方のもとでカリキュラムポリシーを構成する。①まず、学修の基盤としてディプロマポリシーで掲げる「<u>観光倫理と持続可能性の理解</u>」(DP1)及び「<u>地域価値の創造実現能力</u>」(DP2)に対応する「<u>基盤科目</u>」を配置する。②次に、ディプロマポリシーの「<u>地域価値の創造実現能力</u>」(DP2)及び「<u>地域社会との協働的関係性構築能力</u>」(DP3)に対応し、社会的価値を有する観光地域の実現を目指す「<u>専門科目</u>」を配置する。③その上で、<u>実地におけるプロジェクトの実践を通じ、ディプロマポリシーの「データ分析に基づく戦略的意思決定能力</u>」(DP4)を中心に総合的な学びを得る「<u>実践科目</u>」を配置する。</p> <p>①基盤科目</p> <p>地域課題や社会課題を理解し、地域の資源</p>	<p>3 教育課程の編成の考え方及び特色</p> <p>(2) 修了要件</p> <p>基盤科目 7 単位以上、専門科目 8 単位以上、地域共創科目 3 単位以上、実践科目 20 単位、合計 38 単位以上を修得すること。</p> <p>3 教育課程の編成の考え方及び特色</p> <p>(3) 教育課程の授業科目区分および授業科目【資料 7、8】</p> <p>1) カリキュラムポリシー</p> <p>本専攻の教育課程では、実務家教員の採用によって高度な専門的マネジメント能力を涵養すると同時に、本学の持つ観光学の学術基盤にのった専門教育を行う。カリキュラムポリシーは以下のように定めている。</p> <p>①基盤科目</p> <p>地域の顕在的・潜在的な観光資源から社会</p>

<p>から社会的価値を見出すとともに、それらに対応した観光地域マネジメントに必要となる基礎的な概念・知識・能力を身につけるための基盤科目を置く。</p> <p>②専門科目 <u>地域社会との協働により、地域固有の観光資源を地域の社会的価値として磨き上げ、高付加価値・革新的な観光地域の実現を目指すための専門的な知識を学ぶ専門科目を置く。</u></p> <p>③実践科目 <u>観光地域マネジメントに必要となる情報の収集・整理・分析のための知識・能力を身につけ、実地におけるプロジェクトの実践を通じて観光地域の戦略的意思決定を総合的に学ぶ実践科目を置く。</u></p>	<p>的価値を見出し意味づけるとともに、観光地の地域課題や地球規模の社会課題を理解し、それらに対応した観光地域マネジメントに必要となる基礎的な概念・知識・能力を身につけるための基盤科目を置く。</p> <p>②専門科目 地域固有の資源を地域の社会的価値として磨き上げ、高付加価値・革新的な観光地域の実現を目指すための専門的な概念・知識を学ぶ専門科目を置く。</p> <p>③地域共創科目 地域社会との協働的關係性の構築のプロセスにおける意思決定やコミュニケーション形成のあり方・手法を学ぶ地域共創科目を置く。</p> <p>④実践科目 観光地が抱える地域課題の理解を土台として、観光地域マネジメントに必要となる情報の収集整理およびデータ分析に基づく戦略策定を実施し、実地におけるプロジェクトにおいて地域の共通目標を設定し遂行する実践科目を置く。</p>
---	---

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類 (23 ページ)

新	旧
<p>4 教育方法、履修指導、研究指導の方法及び修了要件</p> <p>(2) 標準修了年限・履修科目登録の上限・修了要件・既習得単位の認定方法</p> <p>標準修了年限 2年とする。</p> <p>履修科目登録の上限 年間 38 単位とす</p>	<p>4 教育方法、履修指導、研究指導の方法及び修了要件</p> <p>(2) 標準修了年限・履修科目登録の上限・修了要件・既習得単位の認定方法</p> <p>標準修了年限 2年とする。</p>

<p>る。</p> <p>修了要件 基礎科目 <u>8</u> 単位以上、専門科目 <u>10</u> 単位以上、実践科目 20 単位を習得し、38 単位以上習得すること。</p>	<p>履修科目登録の上限 年間 38 単位とする。</p> <p>修了要件 基礎科目 7 単位以上、専門科目 8 単位以上、地域共創科目 3 単位以上、実践科目 20 単位を習得し、38 単位以上習得すること。</p>
--	---

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類 (28 ページ)

新	旧
<p>10 入学者選抜の概要</p> <p>(1) アドミッションポリシー 【資料 7】</p> <p><u>専門職大学院が養成する人材像及びその教育課程を踏まえ、入学者に期待する人物像として以下のとおりアドミッションポリシーを定める。</u></p>	<p>10 入学者選抜の概要</p> <p>(1) アドミッションポリシー 【資料 7】</p>

(是正事項) 観光学研究科 観光地域マネジメント専攻

2. 学則に記載されている卒業に必要な単位数や学位名称について、「設置の趣旨等を記載した書類」や基本計画書に記載されているものと異なるなど、設置計画の内容が学則に適切に反映されていないように見受けられることから、網羅的に見直すとともに必要に応じて適切に改めること。

(対応)

設置計画の内容が学則に反映されていない部分があったことから、設置計画書全体を複数人で確認を行った。その結果、学則内に他にも反映されていない点があったことから、ご指摘の点に加え、修正を行った。

(1) (新旧対照表) 学則 (案)

新	旧
<p>(博士後期課程への進学)</p> <p>第66条 本学大学院修士課程、<u>博士前期課程又は専門職学位課程</u>を修了して、引き続き博士後期課程に進学を志願する者に対しては、選考のうえ、当該研究科会議の議を経て当該研究科長が進学を許可する。</p>	<p>(博士後期課程への進学)</p> <p>第66条 本学大学院修士課程又は博士前期課程を修了して、引き続き博士後期課程に進学を志願する者に対しては、選考のうえ、当該研究科会議の議を経て当該研究科長が進学を許可する。</p>
<p>(専門職学位課程の修了要件)</p> <p>第78条の3 専門職学位課程を修了するためには、当該課程に第56条の規定による標準修業年限以上在学し、<u>38単位以上</u>を修得したうえ、プロジェクト報告書の審査に合格しなければならない。</p> <p>2 第74条第2項により 専門職大学院において修得したものとみなす場合であって、当該単位の修得により教育課程の一部を履修したと認めるときは、当該単位数、その修得に要した期間その他を勘案して1年を超えない範囲で在学したものとみなすことができる。ただし、この</p>	<p>(専門職学位課程の修了要件)</p> <p>第78条の3 専門職学位課程を修了するためには、当該課程に第56条の規定による標準修業年限以上在学し、36単位以上を修得したうえ、プロジェクト報告書の審査に合格しなければならない。</p> <p>2 第74条第2項により 専門職大学院において修得したものとみなす場合であって、当該単位の修得により教育課程の一部を履修したと認めるときは、当該単位数、その修得に要した期間その他を勘案して1年を超えない範囲で在学したものとみなすことができる。ただし、この</p>

<p>場合においても、少なくとも1年以上在学するものとする。</p> <p>(学位の授与)</p> <p>第80条 学長は、修士課程及び博士前期課程を修了した者には、修士の学位を授与する。</p> <p>2 学長は、博士後期課程を修了した者又は本学大学院の行う学位論文の審査及び試験に合格し、かつ、本学大学院の博士後期課程を修了した者と同等以上の学力を有すると認定された者には、博士の学位を授与する。</p> <p>3 学長は、教職大学院の課程を修了した者には、教職修士(専門職)の学位を授与する。</p> <p>4 学長は、専門職学位課程を修了した者には、<u>観光地域マネジメント修士(専門職)</u>の学位を授与する。</p> <p>5 その他学位に関する事項は、本学学位規程の定めるところによる。</p> <p>(休学)</p> <p>第83条 疾病その他の事由により2ヶ月以上修学を中断しようとする者は、学長の許可を得て休学することができる。</p> <p>2 疾病のため修学することが適当でないと認められる者については、学長は、休学を命ずることができる。</p> <p>3 休学は、1年を超えることができない。ただし、特別の事情があるときは、学長の許可を得てなお引き続き休学することができる。</p> <p>4 休学の期間は、修士課程、博士前期課程、<u>教職大学院の課程及び専門職学位課</u></p>	<p>場合においても、少なくとも1年以上在学するものとする。</p> <p>(学位の授与)</p> <p>第80条 学長は、修士課程及び博士前期課程を修了した者には、修士の学位を授与する。</p> <p>2 学長は、博士後期課程を修了した者又は本学大学院の行う学位論文の審査及び試験に合格し、かつ、本学大学院の博士後期課程を修了した者と同等以上の学力を有すると認定された者には、博士の学位を授与する。</p> <p>3 学長は、教職大学院の課程を修了した者には、教職修士(専門職)の学位を授与する。</p> <p>4 学長は、専門職学位課程を修了した者には、<u>観光修士(専門職)</u>の学位を授与する。</p> <p>5 その他学位に関する事項は、本学学位規程の定めるところによる。</p> <p>(休学)</p> <p>第83条 疾病その他の事由により2ヶ月以上修学を中断しようとする者は、学長の許可を得て休学することができる。</p> <p>2 疾病のため修学することが適当でないと認められる者については、学長は、休学を命ずることができる。</p> <p>3 休学は、1年を超えることができない。ただし、特別の事情があるときは、学長の許可を得てなお引き続き休学することができる。</p> <p>4 休学の期間は、修士課程、博士前期課程及び<u>教職大学院の課程</u>においては、通</p>
--	--

<p>程においては、通算して2年を超えることができない。</p> <p>5 休学の期間は、博士後期課程においては、通算して3年を超えることができない。</p> <p>6 休学の理由が消滅したときは、学長の許可を得て復学することができる。</p> <p>7 休学の期間は、在学した期間に算入しない。</p>	<p>算して2年を超えることができない。</p> <p>5 休学の期間は、博士後期課程においては、通算して3年を超えることができない。</p> <p>6 休学の理由が消滅したときは、学長の許可を得て復学することができる。</p> <p>7 休学の期間は、在学した期間に算入しない。</p>
--	--

また、本年3月に提出した「(新旧対照表)学則」について、別途提出した「和歌山大学学則(案)」と整合性がとれていない点が判明したため、「(新旧対照表)学則」の「新」のうち、第56条第2項及び第4項について、必要な修正を行った。【新旧対照表(学則)】

(2) (新旧対照表) 観光学研究科規則(案)

新	旧
<p>(履修方法)</p> <p>第7条 学生は、授業科目を履修し、必要な研究指導を受けるものとする。</p> <p>2 博士前期課程においては、研究科会議が別に定める履修方法により授業科目を30単位以上修得しなければならない。</p> <p>3 博士後期課程においては、研究科会議が別に定める履修方法により授業科目を14単位修得しなければならない。</p> <p>4 専門職学位課程においては、研究科会議が別に定める履修方法により授業科目を38単位以上修得しなければならない。</p>	<p>(履修方法)</p> <p>第7条 学生は、授業科目を履修し、必要な研究指導を受けるものとする。</p> <p>2 博士前期課程においては、研究科会議が別に定める履修方法により授業科目を30単位以上修得しなければならない。</p> <p>3 博士後期課程においては、研究科会議が別に定める履修方法により授業科目を14単位修得しなければならない。</p> <p>4 専門職学位課程においては、研究科会議が別に定める履修方法により授業科目を36単位以上修得しなければならない。</p>

あわせて、本年3月に提出した「教育課程等の概要」について、別途提出した「設置の趣旨等を記載した書類」と整合性がとれていない点が判明したため、「教育課程等の概要(補正)」における「卒業要件及び履修方法」の一部の修正を行った。

(3) (新旧対照表) 教育課程等の概要

新	旧
【履修科目登録の上限】 年間 <u>38</u> 単位とする。	【履修科目登録の上限】 年間 33 単位とする。

(4) (新旧対照表) 学生確保の見通し

新	旧
i) 社会人学生について 観光学研究科博士前期課程の過去6年間の実績(資料1を参照)では、社会人学生として平均 <u>4.8</u> 名の志願者があり、平均 3.7 名の入学者があった(表1を参照)。	i) 社会人学生について 観光学研究科博士前期課程の過去6年間の実績(資料1を参照)では、社会人学生として平均 4.3 名の志願者があり、平均 3.7 名の入学者があった(表1を参照)。

【教育課程等】

(是正事項) 観光学研究科 観光地域マネジメント専攻

3. 審査意見1のとおり、3つのポリシーの妥当性及び整合性に疑義があるため、適切なディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーに基づき、適切に編成されていることを明確に説明するとともに、必要に応じて適切に改めること。

(対応)

審査意見3における「(教育課程等について、) 適切なディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーに基づき、適切に編成されていることを明確に説明するとともに、必要に応じて適切に改めること。」との指摘と審査意見1及び4の指摘を踏まえ、教育課程がより体系的かつ適切なものとなるようカリキュラム・ポリシーの構成を改めるとともに、教育課程全体について編成を改め、設置の趣旨等を記載した書類等の内容を修正する。

<教育課程の体系的性>

観光地域マネジメントに求められる能力を、理論と実践との架橋により確実かつ効果的に身につけることのできる教育課程を編成する。すなわち、観光地域マネジメントについて確実な基盤をつくることとあわせて、観光地域・地域社会で必要となる専門的な理論や思考法を学び、これら座学から得られる知識・能力と実地でのプロジェクトから得られる実践的な理解とを総合するという体系的な教育課程により、観光地域共創人材に必要な能力(ディプロマ・ポリシー)へ確実につなげることとする。

そのため、基盤となる知識・能力の修得を目指すCP1「基盤科目」、観光地域に適用される専門的知識の修得を目指すCP2「専門科目」、実地でのプロジェクトを核として実践的な理解を目指すCP3「実践科目」へとカリキュラム・ポリシーの構成を改め、これに対応する体系的な教育課程を編成する。

<教育課程の編成>

カリキュラム・ポリシーの構成の見直しにあわせて、適切な教育課程となるよう、以下のように編成を改める。教育課程編成における各授業科目と対応するディプロマ・ポリシーについては【別添2】カリキュラムマップ(「設置の趣旨等を記載した書類」資料8の2枚目と同様、以下同じ。)に、カリキュラム・ポリシーに示す教育課程の体系的性については【別添3】カリキュラム・ツリー(「設置の趣旨等を記載した書類」資料8の1枚目と同様、以下同じ。)に、教育課程におけるコアカリキュラム(必修科目)及びそれを補完する選択科目の関係については【別添4】履修イメージ(「設置の趣旨等を記載した書類」資料13の1枚目と同様、以下同じ。)に示すこととし、各資料を修正している。

・ CP1「基盤科目」

「地域課題や社会課題を理解し、地域の資源から社会的価値を見出すとともに、それらに対応した観光地域マネジメントに必要となる基礎的な概念・知識・能力を身につけるための基盤科目を置く。」とした CP1「基盤科目」においては、観光地域マネジメントの学修の基盤をなす DP1「観光倫理と持続可能性の理解」に対応する地域課題や社会課題を理解する科目群として「観光地事情」「観光倫理と持続可能性」「観光地域実習」「観光地における危機管理」を配置する。また、DP2「地域価値の創造実現能力」の基盤として、地域の資源から社会的価値を見出す過程を学ぶ科目群となる「観光地エスノグラフィー」「地域と自然のストーリー」「地域と文化のストーリー」「ヴァーチャル観光」を配置する。加えて、DP3「地域社会との協働的關係性構築能力」の基礎として「グループワーク手法」を、DP4「データ分析に基づく戦略的意思決定能力」の基礎として「会計学」「ファイナンスマネジメント」「経営理念」「経営戦略」「ビジネスモデル」「人的資源管理」の科目群を、学修の基盤を構成するという内容を反映し CP1「基盤科目」に配置する。

・ CP2「専門科目」について

「地域社会との協働により、地域固有の観光資源を地域の社会的価値として磨き上げ、高付加価値・革新的な観光地域の実現を目指すための専門的な知識を学ぶ専門科目を置く。」とした CP2「専門科目」においては、DP2「地域価値の創造実現能力」に対応し、地域の観光資源を種々の観光商品として価値化していくための科目群として「観光地マーケティング」「観光地ビジュアルデザイン」「観光地プロデュース」「地域映像プロデュース」「観光ツアープランニング」を配置するほか、その過程において必要となる DP3「地域社会との協働的關係性構築能力」に対応する授業科目として「リーダーシップとコミュニケーション」を配置し、DP2 と DP3 を架橋する授業科目として「観光資源と地域コミュニティ」を新設する。

・ CP3「実践科目」について

「観光地域マネジメントに必要となる情報の収集・整理・分析のための知識・能力を身につけ、実地におけるプロジェクトの実践を通じて観光地域の戦略的意思決定を総合的に学ぶ実践科目を置く。」とした CP3「実践科目」においては、DP4「データ分析に基づく戦略的意思決定能力」の基礎となるデータ分析を学ぶ科目群として「観光地データ分析演習」「持続可能な観光指標分析演習」「SNS マーケティング演習」を配置する。また、実地におけるプロジェクトの実践を通じて戦略的意思決定を総合的に学ぶ科目群として「観光地域マネジメントの潮流」「観光地経営戦略演習」「プロフェッショナルライティングⅠ」「観光地域プロジェクトⅠ」「観光地域プロジェクトⅡ」「プロフェッショナルライティングⅡ」を配置する。

・ コアカリキュラムについて

上記の授業科目のうち、基盤科目の「観光地事情」「観光倫理と持続可能性」「観光地域

実習」「観光地における危機管理」「観光地エスノグラフィー」、専門科目の「観光地マーケティング」「観光地プロデュース」「観光資源と地域コミュニティ」、実践科目の全授業科目を、教育課程のコアカリキュラムとして位置づけ、すべての学生について必修科目とする。コアカリキュラムを補完する選択科目については、学生の経歴や興味・関心等をもとに履修指導を行う。

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類 (18 ページ)

新	旧
<p>3 教育課程の編成の考え方及び特色</p> <p>(1) 教育課程の基本的な考え方 (略)</p> <p>本専攻では、企業や自治体に現職を有する社会人学生と、学部から社会人経験を得ずに入学した“ストレートマスター”が共に学ぶことによるシナジー効果を期待している。そのため、教育課程においては、<u>必修科目</u>からなるコアカリキュラムは共通としつつも、実務経験があるが観光の基礎的な教育を受けてこなかった者には観光学の基礎授業を、実務経験がなく会計やファイナンス等の実践的な手法を理解しないストレートマスターにはそれらを補うための授業を行う、というように各々の学生のこれまでの学びや経験にあわせた“オーダーメイド”のカリキュラムで教育がなされるよう、きめ細かな履修指導を実施する。</p> <p>観光専門人材に必要な能力を育成する授業構成とするため、専門科目と実践科目は<u>積み上げを意識した構成</u>としている。教育課程は年度を4期間にわけたクォーター制によって遂行することとし、2年次に配置する「プロフェッショナルライティングⅠ・Ⅱ」「観光地域プロジェクトⅠ・Ⅱ」を遂行するために必要な能力は、おおむね第4クォーターまでに身につけるものとする</p>	<p>3 教育課程の編成の考え方及び特色</p> <p>(1) 教育課程の基本的な考え方 (略)</p> <p>本専攻では、企業や自治体に現職を有する社会人学生と、学部から社会人経験を得ずに入学した“ストレートマスター”が共に学ぶことによるシナジー効果を期待している。そのため、教育課程においては、コアカリキュラムは共通としつつも、実務経験があるが観光の基礎的な教育を受けてこなかった者には観光学の基礎授業を、実務経験がなく会計やファイナンス等の実践的な手法を理解しないストレートマスターにはそれらを補うための授業を行う、というように各々の学生のこれまでの学びや経験にあわせた“オーダーメイド”のカリキュラムで教育がなされるよう、きめ細かな履修指導を実施する。</p> <p>観光専門人材に必要な能力を育成する授業構成とするため、専門科目と実践科目は<u>積み上げ式</u>としている。教育課程は年度を4期間にわけたクォーター制によって遂行することとし、2年次に配置する「プロフェッショナルライティングⅠ・Ⅱ」「観光地域プロジェクトⅠ・Ⅱ」を遂行するために必要な能力は、おおむね第4クォーターまでに身につけるものとする (一部科目</p>

<p>る。</p> <p>(略)</p> <p>(3) 教育課程の授業科目区分および授業科目【資料 7、8】</p> <p>2) 授業科目</p> <p>①基盤科目</p> <p>必修 5 科目 選択 10 科目の計 15 科目。 <u>地域課題や社会課題を理解し、地域の資源から社会的価値を見出すとともに、それらに対応した観光地域マネジメントに必要となる基礎的な概念・知識・能力を身につけるための基盤科目を置く。</u></p> <p><u>カリキュラムポリシーに示す地域課題や社会課題の理解に対応する授業科目として「観光地事情」「観光倫理と持続可能性」「観光地域実習」「観光地における危機管理」の 4 科目をすべて必修科目として配置する。</u> <u>地域の資源から社会的価値を見出す過程を学ぶ授業科目としては、「観光地エスノグラフィ」を必修科目とし、必要に応じ「地域と自然のストーリー」「地域と文化のストーリー」や、観光 DX に関わる「ヴァーチャル観光」を選択する。また、協働的關係性の基礎となるコミュニケーションについて学ぶ「グループワーク手法」、戦略的意思決定の基礎となる経営について学ぶ「会計学」「ファイナンシャルマネジメント」「経営理念」「経営戦略」「ビジネスモデル」「人的資源管理」についても選択科目として配置する。</u></p> <p>②専門科目</p> <p>必修 3 科目 選択 4 科目の計 7 科目。 <u>地域社会との協働により、地域固有の観光</u></p>	<p>は第 5 クォーターに開講)。</p> <p>(略)</p> <p>(3) 教育課程の授業科目区分および授業科目【資料 7、8】</p> <p>2) 授業科目</p> <p>①基盤科目</p> <p>第 1～5 クォーターに開講。必修 5 科目 選択 7 科目の計 12 科目。 <u>地域の顕在的・潜在的な観光資源から社会的価値を見出し意味づけるとともに、観光地の地域課題や地球規模の社会課題を理解し、それらに対応した観光地域マネジメントに必要となる基礎的な概念・知識・能力を身につけるための基盤科目を置く。</u></p> <p>観光地事情 持続可能な観光基礎 観光地域実習 観光ドキュメンタリー 会計学 ファイナンシャルマネジメント 地域と文化のストーリー 観光と危機管理 観光と経営理念 地域と自然のストーリー 人的資源管理 ヴァーチャル観光</p> <p>②専門科目</p> <p>第 1～4 クォーターに開講。必修 2 科目 選択 3 科目の計 5 科目。</p>
--	--

<p>資源を地域の社会的価値として磨き上げ、高付加価値・革新的な観光地域の実現を目指すための専門的な知識を学ぶ専門科目を置く。</p> <p><u>地域が有する資源を商品化し社会的価値の実現を目指す授業科目として、「観光地マーケティング」「観光地プロデュース」を必修科目として配置し、「観光地ビジュアルデザイン」「地域映像プロデュース」「観光ツアープランニング」を選択科目とする。社会的価値の実現の過程における協働的関係性を学ぶ授業科目として「観光資源と地域コミュニティ」を必修科目とし、組織間の協働について学ぶ「リーダーシップとコミュニケーション」を選択科目として配置する。</u></p> <p>③実践科目 必修9科目の計9科目。 観光地域マネジメントに必要な情報の<u>収集・整理・分析のための知識・能力を身につけ、実地におけるプロジェクトの実践を</u></p>	<p>地域固有の資源を地域の社会的価値として磨き上げ、高付加価値・革新的な観光地域の実現を目指すための専門的な概念・知識を学ぶ専門科目を置く。</p> <p>観光地マーケティング ビジュアルデザイン 観光地プロデュース 地域映像プロデュース 観光ツアープランニング</p> <p>③地域共創科目 第3～5クォーターに開講。必修1科目 選択3科目の計4科目。 地域社会との協働的関係性の構築のプロセスにおける意思決定やコミュニケーション形成のあり方・手法を学ぶ地域共創科目を置く。</p> <p>ビジネスモデル リーダーシップとコミュニケーション 地域産業と観光 グループワーク手法</p> <p>④実践科目 第1～8クォーターに開講。必修9科目の計9科目。 観光地が抱える地域課題の理解を土台として、観光地域マネジメントに必要な情</p>
---	---

<p>通じて観光地域の戦略的意思決定を総合的に学ぶ実践科目を置く。</p> <p>観光地域に関わるデータ分析を学ぶ授業科目として「観光地データ分析演習」「持続可能な観光指標分析演習」「SNS マーケティング演習」の3科目、観光地域の戦略的意思決定を総合的に学ぶ授業科目として「観光地域マネジメントの潮流」「観光地経営戦略演習」「プロフェッショナルライティング I」「観光地域プロジェクト I」「観光地域プロジェクト II」「プロフェッショナルライティング II」の6科目をすべて必修科目として配置する。</p>	<p>報の収集整理およびデータ分析に基づく戦略策定を実施し、実地におけるプロジェクトにおいて地域の共通目標を設定し遂行する実践科目を置く。</p> <p>観光地域マネジメントの潮流 観光地データ分析演習 持続可能な観光地域分析演習 SNS マーケティング演習 観光地域経営戦略演習 プロフェッショナルライティング I 観光地域プロジェクト I 観光地域プロジェクト II プロフェッショナルライティング II</p>
---	--

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類 (21 ページ)

新	旧
<p>3 教育課程の編成の考え方及び特色 (4) 専門職大学院の教育課程の特色 1) 地域における観光地域づくりに必要な人材を育てる高度な実践型教育 本専攻が設置する授業科目のうち、コアカリキュラムを構成するのは、基盤科目の5科目(「観光地事情」「観光倫理と持続可能性」「観光地域実習」「観光地における危機管理」「観光地エスノグラフィー」)、専門科目の3科目(「観光地マーケティング」「観光地プロデュース」「観光資源と地域コミュニティ」)、実践科目の9科目の全17科目である。これらの科目はすべての学生について必修科目とする。コアカリキュラムを補完する選択科目については、学生の経歴や興味・関心等をもとに十分な履修指導を行うことで、適切な科目選択ができるように</p>	<p>3 教育課程の編成の考え方及び特色 (4) 専門職大学院の教育課程の特色 1) 地域における観光地域づくりに必要な人材を育てる高度な実践型教育</p>

<p>する【資料13】。</p> <p>(略)</p> <p>2)「プロフェッショナルライティングⅠ・Ⅱ」「観光地域プロジェクトⅠ・Ⅱ」【資料10】</p> <p>プロフェッショナルライティングⅠ・Ⅱ、観光地域プロジェクトⅠ・Ⅱは2年次に配置される実践的な一連の学びである。<u>観光地域プロジェクトⅠ・Ⅱはそれぞれ1ヶ月程度の実地研修(各4単位)であり、プロフェッショナルライティングⅠ・Ⅱは実地研修の効果を高めるための事前事後の演習(各1単位)となる。</u>この学びを通じて学生が確実にディプロマ・ポリシーで掲げた能力を修得できるよう、学生それぞれに2人の指導教員、3人の実務家教員、受け入れ先のメンターがチームを作って指導する体制を用意する。具体的には、対象となる地域課題に対して専門領域がマッチする教員がそれぞれのプロジェクトの主指導教員になる。観光地域の課題は一般的に複合的なために、専門領域が異なる教員を副指導教員にする。すべてのプロジェクトには、データに基づくDMOのマネジメントの経験を持つ実務家教員(実務家(データ))、観光ツアープランなどの観光資源の開発の経験を持つ実務家教員(実務家(観光開発))、さらには観光地域でトップレベルの戦略と経営判断の経験を持つ実務家教員(実務家(戦略))の3人が、それぞれの立場で実施計画の作成からプロジェクトの指導まで参加する。特に、実務家(データ)は、プロジェクト統括教員として、この一連の学びの取りまとめ役を務める。受け入れ先のメンターは、DMO等で実際に地域社会との協</p>	<p>(略)</p> <p>2)「プロフェッショナルライティングⅠ・Ⅱ」「観光地域プロジェクトⅠ・Ⅱ」【資料10】</p> <p>プロフェッショナルライティングⅠ・Ⅱ、観光地域プロジェクトⅠ・Ⅱは2年次に配置される実践的な一連の学びである。この学びを通じて学生が確実にディプロマ・ポリシーで掲げた能力を修得できるよう、学生それぞれに2人の指導教員、3人の実務家教員、受け入れ先のメンターがチームを作って指導する体制を用意する。具体的には、対象となる地域課題に対して専門領域がマッチする教員がそれぞれのプロジェクトの主指導教員になる。観光地域の課題は一般的に複合的なために、専門領域が異なる教員を副指導教員にする。すべてのプロジェクトには、データに基づくDMOのマネジメントの経験を持つ実務家教員(実務家(データ))、観光ツアープランなどの観光資源の開発の経験を持つ実務家教員(実務家(観光開発))、さらには観光地域でトップレベルの戦略と経営判断の経験を持つ実務家教員(実務家(戦略))の3人が、それぞれの立場で実施計画の作成からプロジェクトの指導まで参加する。特に、実務家(データ)は、プロジェクト統括教員として、この一連の学びの取りまとめ役を務める。受け入れ先のメンターは、DMO等で実際に地域社会との協働のもと地域価値の実現に向けた戦略的意思決定に携わる役職者に担当を依頼する。教員チームは、専攻会議のもとに観光地域プロジェクト実施部会を設置し、年間を通じて定期的にプロジ</p>
---	--

<p>働のもと地域価値の実現に向けた戦略的 意思決定に携わる役職者に担当を依頼する。 教員チームは、専攻会議のもとに観光地域 プロジェクト実施部会を設置し、年間を通 じて定期的にプロジェクトの準備と運営を 行う。</p> <p>(略)</p> <p>学生は1年次に配当される基盤科目「観 光地域実習」、専門科目「<u>観光地マーケティ ング</u>」、実践科目「観光地域マネジメントの 潮流」などを通じて、観光地域の課題やそ れに対して行われたプロジェクト事例につ いて学ぶ。特に「観光地域実習」では2年次 に行う観光地域プロジェクトⅠ・Ⅱの実習 先となりうる地域を知り、検討する。第4 クォーターに開講する「観光地経営戦略演 習」では、ケース教材を使ってグループワ ークで観光地域マネジメントをシミュレー ションするが、後半には各学生が2年次に 実習を行う実習地をモデルにしたケース教 材で学ぶことで、プロジェクトへの関心を 高める。</p> <p>2年次の第5クォーターでは、プロフェ ッショナルライティングⅠを開講する。こ こでは実際の受け入れ先からあった募集要 項に基づいたプロジェクト計画書の作成を 学び、現地と連携しながら実務レベルな緻 密なものへと仕上げる【資料 10、12】。その 後、第6・7クォーターの観光地域プロジ ェクトⅠ・Ⅱではそれぞれ実際に1ヶ月程 度(週4日1日8時間)の現地研修を行う。 観光地域プロジェクトⅠでは、プロフェッ ショナルライティングⅠにおいて作成した 計画書が実際に動くか、動かない場合には 修正を加えながら、プロジェクトを軌道に</p>	<p>ェクトの準備と運営を行う。</p> <p>(略)</p> <p>学生は1年次に配当される基盤科目「観 光地域実習」、地域共創科目「地域産業と観 光」、実践科目「観光地域マネジメントの潮 流」などを通じて、観光地域の課題やそれ に対して行われたプロジェクト事例につ いて学ぶ。特に「観光地域実習」では2年次 に行う観光地域プロジェクトⅠ・Ⅱの実習先 となりうる地域を知り、検討する。第4ク ォーターに開講する「観光地経営戦略演習」 では、ケース教材を使ってグループワーク で観光地域マネジメントをシミュレーショ ンするが、後半には各学生が2年次に実習 を行う実習地をモデルにしたケース教材で 学ぶことで、プロジェクトへの関心を高め る。</p> <p>2年次の第5クォーターでは、プロフェ ッショナルライティングⅠを開講する。こ こでは実際の受け入れ先からあった募集要 項に基づいたプロジェクト計画書の作成を 学び、現地と連携しながら実務レベルな緻 密なものへと仕上げる【資料 12】。その後、 第6・7クォーターの観光地域プロジ ェクトⅠ・Ⅱではそれぞれ実際に1ヶ月程度(週 4日1日8時間)の現地研修を行う。観光 地域プロジェクトⅠでは、プロフェッショ ナルライティングⅠにおいて作成した計画 書が実際に動くか、動かない場合には修正 を加えながら、プロジェクトを軌道に乗せ</p>
---	--

<p>乗せることになるが、この学びを通じてプロジェクトマネジメントにおける課題を発見することを目標とする。観光地域プロジェクトIIではプロジェクトの成果をまとめながら、効果検証を行い、そこから地域課題・社会課題を深く理解することを目標とする。実地研修期間においても、受講者全員の参加によるICT技術を用いたオンラインでの演習形式の授業を土曜日（場合によっては平日夜間）に開講し、それぞれのプロジェクトにおける問題点や成果を共有し、それぞれの知見へとつなげる。また指導教員、実務家教員は交代で週1回程度の頻度で実地におもむき、そこでも指導を行う。メンターは観光地域固有の課題（例えば、人的資源やマーケティングなど）の専門家であり、事前に入念に調整・作成した計画書の内容に基づき、指導教員が有する知見を超えた実践的な知見をもとに、現地で学生の指導を行う。</p>	<p>ることになるが、この学びを通じてプロジェクトマネジメントにおける課題を発見することを目標とする。観光地域プロジェクトIIではプロジェクトの成果をまとめながら、効果検証を行い、そこから地域課題・社会課題を深く理解することを目標とする。実地研修期間においても、受講者全員の参加によるICT技術を用いたオンラインでの演習形式の授業を土曜日（場合によっては平日夜間）に開講し、それぞれのプロジェクトにおける問題点や成果を共有し、それぞれの知見へとつなげる。また指導教員、実務家教員は交代で週1回程度の頻度で実地におもむき、そこでも指導を行う。メンターは観光地域固有の課題（例えば、人的資源やマーケティングなど）の専門家であり、事前に入念に調整・作成した計画書の内容に基づき、指導教員が有する知見を超えた実践的な知見をもとに、現地で学生の指導を行う。</p>
---	---

(是正事項) 観光学研究科 観光地域マネジメント専攻 (P)

4. 審査意見3のとおり、教育課程の妥当性が判断することができず、例えば、「地域共創科目」の位置づけが不明確であるとともに、DP3で掲げる「地域社会との協働的關係性構築能力」を具体的に身につける授業科目が1単位科目の「グループワーク手法」のみであると見受けられ、この能力を十分に養成する教育課程となっているかについて疑義がある。「地域共創科目」の位置づけを説明するとともに、DP3に関連する授業科目を挙げつつ、DP3を達成するために適切な教育課程となっていることを説明すること。また、同様の観点から他の授業科目についても全体的に授業科目の追加や授業科目の内容の見直しを含め、必要に応じて適切に改めること。

(対応)

審査意見4における指摘を踏まえ、DP3「地域社会との協働的關係性構築能力」を具体的に身につける授業科目の構成が不明確な点について改めて整理を行い、DP3で掲げる「地域社会との協働的關係性構築能力」が「地域共創科目」にそのまま対応するのではなく、教育課程全体をとおして順序立てて身につけていくものであることが説明できるよう、3つのポリシーの対応関係を明確にし、カリキュラム・ポリシーの構成を見直すと同時にそれぞれの項目の表現を改め、授業科目の追加を含めて、授業科目の配置を適切に見直す。同様の観点から、教育課程の全体について授業科目の内容と位置づけを精査し適切に改め、設置の趣旨等を記載した書類等の内容を修正する。

<DP3を身につけるための教育課程の考え方>

DP3「地域社会との協働的關係性構築能力」は、地域社会との建設的なコミュニケーションにより協働的關係性を構築することに加えて、その協働的關係性を通じた社会的価値をもち自立し持続可能な地域の実現を視野に入れたものとなっている。この能力を身につけるための教育課程は、まず、CP1「基盤科目」において、地域社会とのコミュニケーション形成を学び、そのようなコミュニケーションを図りつつ地域資源から社会的価値を見出す過程について学ぶ。あわせて、CP2「専門科目」では社会的価値を有し選ばれる地域社会の実現のために観光商品として地域資源を価値化する際の、地域社会との協働的關係性のありようについて学ぶ。次に、実地におけるプロジェクトを核とするCP3「実践科目」では、地域社会との協働的關係性が、現実の観光地域の戦略的意思決定で果たす役割について実践的な学びを得る、というように教育課程全体に渡る構成をとっている。

<教育課程の全体における授業科目の適切な配置と見直し>

DP3に関する上記の考え方を踏まえ、適切な教育課程の編成となるよう授業科目の配置を見直し、必要となる授業科目を追加する。まずCP1「基盤科目」には、コミュニケーショ

ンの形成をグループワークの手法を通じて学ぶ「グループワーク手法」と、地域社会とコミュニケーションを図りつつ社会的価値を見出す過程を学ぶ「観光地エスノグラフィー」「地域と自然のストーリー」「地域と文化のストーリー」を配置する。CP2「専門科目」には、地域に存在する異なった利害関係をもった組織間コミュニケーションとそこでのリーダーシップを学ぶ「リーダーシップとコミュニケーション」を配置するとともに、地域資源を価値化していく際の地域社会との協働的關係性のありようを学ぶ授業科目として「観光資源と地域コミュニティ」を新しく追加する。CP3「実践科目」においては、観光地域の戦略的意思決定の中での地域社会との協働的關係性について実践的に学ぶ「観光地経営戦略演習」「プロフェッショナルライティングⅠ」「観光地域プロジェクトⅠ」「観光地域プロジェクトⅡ」「プロフェッショナルライティングⅡ」を配置する。

これにあわせて、従来の計画では「地域共創科目」の中に配置していた「ビジネスモデル」「経営戦略」についても、授業科目の位置づけを明確にするため、観光地域マネジメントの基盤となる知識を身につける CP1「基盤科目」へ配置を変更する。

また、ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーで示される教育課程への適合度を上げるため、教育課程の全体について授業科目の内容とカリキュラム・ポリシーにおける位置づけを精査し、「持続可能な観光基礎」を「観光倫理と持続可能性」へ、「観光と危機管理」を「観光地における危機管理」へ、「観光と経営理念」を「経営理念」へ、「地域産業と観光」を「経営戦略」へ、「観光ドキュメンタリー」を「観光地エスノグラフィー」へ、「ビジュアルデザイン」を「観光地ビジュアルデザイン」へと授業科目名を変更するとともに、シラバスにおける授業内容等の一部を改める。加えて、「グループワーク手法」については、授業科目の位置づけ及び配置を見直したことにともない、配当年次を2年次第1クォーターから1年次第1クォーターに変更する。その他の授業科目についても、学生の履修の便宜を考慮し開講学期を一部調整する。

なお、それぞれの授業科目の配置及びディプロマ・ポリシーとの対応等については【別添2】カリキュラムマップ及び【別添3】カリキュラム・ツリーに、必修科目と選択科目の位置づけについては【別添4】履修イメージに示すこととし、各資料を修正している。また、配当年次の変更等については【別添5】教育課程等の概要（補正）に、名称や内容を変更する授業科目の詳細については【別添6】シラバス（抜粋）に示している。

（新旧対照表）設置の趣旨等を記載した書類（19 ページ）

新	旧
3 教育課程の編成の考え方及び特色 (3) 教育課程の授業科目区分および授業科目【資料7、8】 2) 授業科目	3 教育課程の編成の考え方及び特色 (3) 教育課程の授業科目区分および授業科目【資料7、8】 2) 授業科目

それぞれの授業科目は、カリキュラムポリシーにもとづいて配置される。「観光倫理と持続可能性の理解」(DP1)を基盤として、「地域価値の創造実現能力」(DP2)、「地域社会との協働的関係性構築能力」(DP3)、「データ分析に基づく戦略的意思決定能力」(DP4)の各能力が確実に身につくよう、教育課程全体をとおして適切に授業科目を配置する。	
---	--

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類 (21 ページ)

新	旧
また、現代の観光ではさまざまなリスクに対応する必要性が高まってきていることから基盤科目の「観光地における危機管理」において危機管理対応能力を身につける。	また、現代の観光ではさまざまなリスクに対応する必要性が高まってきていることから基盤科目の「観光と危機管理」において危機管理対応能力を身につける。

(新旧対照表) シラバス 授業科目名称の変更 (3、6、8、12、13、18 ページ)

新	旧
観光倫理と持続可能性	持続可能な観光基礎
観光地エスノグラフィー	観光ドキュメンタリー
経営理念	観光と経営理念
観光地における危機管理	観光と危機管理
経営戦略	地域産業と観光
観光地ビジュアルデザイン	ビジュアルデザイン

(新旧対照表) シラバス 授業科目の追加 (22 ページ)

新	旧
観光資源と地域コミュニティ	(追加)

(新旧対照表) シラバス 講義等の内容の変更 (3、4、5、6、7、8、9、10、11、12、13、14、16、17、18、20、21、23、24、26、29、30、31、32 ページ)

新	旧
○観光倫理と持続可能性	○持続可能な観光基礎

<p>【授業計画】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 持続可能性理念 Only one earth から SDGs へ 2. 持続可能な観光に向けての<u>ビジョン 1</u> 世界観光倫理憲章(GCET)など 3. 持続可能な観光に向けての<u>ビジョン 2</u> <u>持続可能な地域のあり方と観光の役割・課題</u> 4. 持続可能な観光地域マネジメント <u>1</u> 世界のトレンドを<u>先行事例から学ぶ</u> 5. 持続可能な観光地域マネジメント <u>2</u> 多様なステークホルダーの視点 6. 持続可能な観光地域マネジメント <u>3</u> モニタリング、アセスメントツール 7. 持続可能な観光地域 ブランディング、マーケティングアクセス 8. まとめ <p>【成績評価】</p> <p><u>各回の講義中のディスカッションペーパー (30%)、各回の小レポート (30%) に加えて、最終課題として具体的な地域をケースとした評価、プレゼン (40%) をもとに総合的に評価する。</u></p>	<p>【授業計画】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 持続可能性理念：Only one earthから SDGsへ 2. 持続可能な観光に向けてのビジョン：世界観光倫理憲章など 3. 持続可能な地域のあり方と観光の役割・課題 4. 持続可能な観光地域マネジメント：世界のトレンド 5. 持続可能な観光地域マネジメント：多様なステークホルダーの視点 6. 持続可能な観光地域マネジメント：モニタリング、アセスメントツール 7. 持続可能な観光地域：ブランディング、マーケティングアクセス 8. まとめ <p>【成績評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> •ディスカッションタスク（課題設定、バックキャストによるKPI設定や評価） 30% •持続可能な観光地域づくりの理論的考察（レポート） 30% •ケーススタディー（課題・評価を取り入れた持続可能な観光モデル構築の構想、評価方法、プレゼンテーション） 40%
<p>○グループワーク手法</p> <p>【授業の概要】</p> <p>観光地域づくりにおいては、地域住民や観光事業者相互等の合意にもとづく持続可能な地域資源の活用が求められる。そのためには、各アクターが対話し、合意形成することが必要不可欠である。</p> <p>地域づくりにおける対話の代表的な方法</p>	<p>○グループワーク手法</p> <p>【授業の概要】</p> <p>観光地域づくりにおいては、地域住民や観光事業者相互等の合意にもとづく持続可能な地域資源の活用が求められる。そのためには、各アクターが対話し、合意形成することが必要不可欠である。</p> <p>地域づくりにおける対話の代表的な方法</p>

<p>としては、関係者を対象とした、学習会やワークショップなどが広く行われている。この授業では、学習会やワークショップで用いられるグループワークの手法を取り扱う。</p> <p>具体的には、簡単なケースをもちいたグループワークを通じて、アイスブレイク手法、話し合いの方法、ファシリテーション手法、付箋紙等の効果的な使い方、リフレクションの方法などを、ディスカッションを行いながら学ぶことにより、<u>地域づくりにおけるコミュニケーションのあり方を身につける。</u></p>	<p>としては、関係者を対象とした、学習会やワークショップなどが広く行われている。この授業では、学習会やワークショップで用いられるグループワークの手法を取り扱う。</p> <p>具体的には、簡単なケースをもちいたグループワークを通じて、アイスブレイク手法、話し合いの方法、ファシリテーション手法、付箋紙等の効果的な使い方、リフレクションの方法などを、ディスカッションを行いながら学ぶ。</p>
<p>○観光地域実習</p> <p>【授業計画】</p> <p><u>1日目 事前グループディスカッション(演習：2時間)</u></p> <p><u>現地実習の事前学習として受講者間でグループディスカッションを行なう</u></p> <p><u>2～4日目 現地実習(実習：3日間×6時間)</u></p> <p><u>実際の観光地域においてフィールドワークを実施する</u></p> <p>(1) <u>観光地の現状の視察</u></p> <p>(2) <u>関連するステークホルダーの取材</u></p> <p>(3) <u>観光地の取りまとめを行う団体の取材</u></p> <p>(4) <u>その他の見学等</u></p> <p><u>5日目 事後グループディスカッション(演習：2時間)</u></p> <p><u>現地実習の事後学習として受講者間でグループディスカッションを行なう</u></p> <p><u>6日目 プレゼンテーション(演習：2時間)</u></p> <p><u>実地で得た知見を発表し成果を共有する</u></p>	<p>○観光地域実習</p> <p>【授業計画】</p> <p>1. 事前グループディスカッション(演習)</p> <p>2～6. 現地実習(3日間×6時間)(実習)</p> <p>7. 事後グループディスカッション(演習)</p> <p>8. プレゼンテーション(演習)</p>

<p>○観光地エスノグラフィー</p> <p>【授業の概要】</p> <p><u>観光地域には様々な立場の人々が存在し、それぞれの役割が複雑に交差し、地域社会を構築している。このような地域社会を理解するには、地域に深く関わって参与することが必要となる。</u></p> <p><u>このように地域社会内部に入り込むことによってコミュニケーションを重ね、協働的関係を構築する手法を、理論的背景と実例を通じて学ぶ。</u></p> <p><u>その地域の深層を抽出する手法として、本授業では特に“ドキュメンタリー映像・映画”“観光映像”を教材として扱い、授業内において議論を重ねることによって、より深く観光地域を理解する。</u></p> <p>【授業計画】</p> <p>1. <u>観光地域のエスノグラフィー：その理論的背景</u></p> <p><u>エスノグラフィーの中では参与観察も行われる。これは研究対象となる社会の内部に入り込み、内部から研究調査を行う手法である。このような手法も含めて地域とコミュニケーションを取り、地域の潜在的可能性を見出す方法を、実例を交えて解説す</u></p>	<p>○観光ドキュメンタリー</p> <p>【授業の概要】</p> <p>観光地域のプロモーションの一つとして、観光映像への注目が高まっている。それは観光映像自体が、多くの情報を含んだリッチコンテンツであり、また映像を使用したデジタルマーケティング自体がこれからの技術として期待されていることがその背景にある。</p> <p>しかし、映像自体の魅力も重要な要素であることを忘れてはいけない。視聴者は観光映像を見て、その真偽を直感的に理解する。プロモーションをプロモーションとして理解するという商業ベースのプロモーションとは異なり、観光は商業でありながら、そこに観光地域づくりが背景にあるため、真実性は観光地選択の重要なポイントとなる。本授業では、観光映像を用いたプロモーションを広く学び、その映像のドキュメンタリー性を見出す視点を学ぶことで、観光地域を創造するための基盤となる考え方を修得する。</p> <p>授業はゼミナール形式で行い、毎回の講義で紹介される観光映像を材料に議論をする。</p> <p>【授業計画】</p> <p>1. <u>観光映像とは：観光ならではのポイント</u></p>
--	--

<p>る。</p> <p><u>2. ドキュメンタリー映像、観光映像から読めること</u></p> <p><u>ドキュメンタリー映像、観光映像は地域社会を映像で描いたものであり、それらの映像にもエスノグラフィーの手法が用いられることもある。映像の分析とともに観光地域について考える。</u></p> <p><u>3. 地域住民の生活と観光について</u></p> <p><u>観光地域の潜在的な観光資源として、住民の生活、生活の場が挙げられる。このような日常の場をどのように見出すのか、住民との交流によって見つける手法について学ぶ。</u></p> <p><u>4. 観光映像の真偽性</u></p> <p><u>観光映像は、観光地域の観光資源を紹介する映像である。そしてそれは旅行者に届ける映像であり、住民が見る世界とは異なることがある。真偽性を議論し、住民と観光客の間のコミュニケーションについて議論する。</u></p> <p><u>5. ドキュメンタリー性とは何か</u></p> <p><u>ドキュメンタリー映像は広告映像と違い、真実性を伴った映像と考えられる。しかし、広告映像にも観光映像にもドキュメンタリー性が含まれることもある。その意味と効果について論じる。</u></p> <p><u>6. 観光資源を顕在化すること</u></p> <p><u>観光地を開発する際には、潜在的な観光資源をどのように見出すか、が大切なこととなる。しかし、潜在的なものを外に出すことは、住民の生活をおびやかすこともある。この関係について議論する。</u></p> <p><u>7. 観光資源の社会的価値を問う</u></p> <p><u>観光地における資源は多くの場合は経済</u></p>	<p>2. 観光映像とは：ドキュメンタリー部門映画の紹介</p> <p>3. 観光地における真偽性について</p> <p>4. 観光映像とは：真偽性の問題がある映像の紹介</p> <p>5. ドキュメンタリー映画が目指すもの</p> <p>6. 世界で評価されているドキュメンタリー観光映像</p> <p>7. 国内事例における観光映像の問題点と今後の課題</p>
--	--

<p>的価値へと展開される。しかし、住民のコミュニティにおいては社会的価値が重視されることが多い。この視点において観光資源がいかに社会的価値につながるか、を考える。</p> <p>8. まとめ</p> <p>1-7で学んだことを受講者で討論し、さらなる理解を進める。</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・エスノグラフィー、ドキュメンタリー性の理論背景を学習し、観光地域の潜在的な観光資源を見つける手法、その意味を理解している。 ・潜在的観光資源を顕在化するドキュメンタリー映画の手法について理解している。 ・これらの学習を身につけ、観光地域の潜在的魅力の抽出方法やその価値について議論することができる。 	<p>8. まとめ</p> <p>【到達目標】</p> <p>我が国における観光映像の問題点を理解する。観光地における真偽性についての観点を身につける。観光におけるドキュメンタリー性について理解する。</p>
<p>○会計学</p> <p>【成績評価】</p> <p>毎回のワークの提出状況および評価結果60%、まとめのレポート40%の割合で総合的に評価する。</p>	<p>○会計学</p> <p>【成績評価】</p> <p>毎回のワークの提出および評価60%、まとめのレポート40%の割合で総合的に評価する。</p>
<p>○経営理念</p> <p>【授業の概要】</p> <p>経営理念とは経営者の経営目的、信念、行動指針などを明文化し、その企業が果たすべき使命や、基本姿勢などを社内外に向けて表明したものである。企業の進むべき将来像を示す羅針盤的な役割を果たし、対内的には、構成員の行動規範、価値判断や自己評価の基準となるものであり、対外的には他企業との違いを示すアイデンティテ</p>	<p>○観光と経営理念</p> <p>【授業の概要】</p> <p>企業経営の基礎的な考え方を明文化したものである経営理念について多面的に理解するとともに、地域の総合産業としての観光産業と経営理念の関係について言及する。</p> <p>経営理念とは経営者の経営目的、信念、行動指針などを明文化し、その企業が果たすべき使命や、基本姿勢などを社内外に向</p>

<p><u>イの基盤となるものでもあり、通常は長期にわたって持続的に受け継がれるものである。</u></p> <p><u>本授業科目では、この経営理念の果たす役割を多面的にとらえるとともに、地域の総合産業としての観光産業と経営理念の関係や、さまざまな業種のさまざまな企業が連携して形成される観光地において各企業が保有する経営理念を相互に理解することの重要性について解説していく。</u></p>	<p>けて表明したものである。企業の進むべき将来像を示す羅針盤的な役割を果たし、対内的には、構成員の行動規範、価値判断や自己評価の基準となるものであり、対外的には他企業との違いを示すアイデンティティの基盤となるものでもあり、通常は長期にわたって持続的に受け継がれるものである。本授業科目では、この経営理念の果たす役割を多面的にとらえるとともに、さまざまな業種のさまざまな企業が連携して形成される観光地において各企業が保有する経営理念を相互に理解することの重要性について解説していく。</p>
<p>○地域と文化のストーリー</p> <p>【成績評価】</p> <p>授業内で課す課題への対応状況 50%、ディスカッションへの参加状況およびその評価結果 50%をもって総合的に評価する。</p>	<p>○地域と文化のストーリー</p> <p>【成績評価】</p> <p>授業内で課す課題 50%、ディスカッションおよびその評価 50%をもって総合的に評価する。</p>
<p>○地域と自然のストーリー</p> <p>【成績評価】</p> <p>海・山・空の3回の発表における具体的なストーリーについてのプレゼンテーション内容 (50%) と最終レポートとして、和歌山地域をテーマにした新しいストーリーについてのレポート (50%) によって総合的に評価する。</p>	<p>○地域と自然のストーリー</p> <p>【成績評価】</p> <p>海・山・空の3回の発表における具体的なストーリーについてのプレゼンテーション (50%) と最終レポートとして、和歌山地域をテーマにした新しいストーリーについてのレポート (50%) によって総合的に評価する。</p>
<p>○ファイナンシャルマネジメント</p> <p>【授業計画】</p> <p>1. 損益計算書 <u>事業の儲け方を数字で捉える BS 表について</u></p> <p>2. 貸借対照表 <u>資金の調達と運用を把握する PL 表について</u></p>	<p>○ファイナンシャルマネジメント</p> <p>【授業計画】</p> <p>1. 事業の儲け方を数字で捉えるPL表 (損益計算書)</p> <p>2. 資金の調達と運用を把握するBS表 (貸借対照表)</p>

<p>3. キャッシュフロー計算書 <u>経営の成否を左右する CF 表について</u></p> <p>4. 財務三表と経営分析 <u>財務三表 (PL・BS・CF) の連動モデルと経営分析</u></p> <p>5. 個別原価計算と管理会計 <u>個別事業の損益を見抜く個別原価計算と管理会計</u></p> <p>6. バリュエーション分析 <u>事業投資 (M&A や事業承継) で失敗しないバリュエーション</u></p> <p>7. ケーススタディ A <u>宿泊業・交通業の財務モデリング</u></p> <p>8. ケーススタディ B <u>飲食業・物販業の財務モデリング</u></p> <p>【成績評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中間評価レポート 40% (財務諸表の基礎について) ・最終評価レポート 60% (財務モデリングを実践方法について) 	<p>3. 経営の成否を左右するCF表 (キャッシュフロー計算書)</p> <p>4. 財務三表 (PL・BS・CF) の連動モデルと経営分析</p> <p>5. 個別事業の損益を見抜く個別原価計算と管理会計</p> <p>6. 事業投資 (M&A や事業承継) で失敗しないバリュエーション</p> <p>7. ケーススタディ A: 宿泊業・交通業の財務モデリング</p> <p>8. ケーススタディ B: 飲食業・物販業の財務モデリング</p> <p>【成績評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中間評価 40% (財務諸表の基礎を理解している) ・最終評価 60% (財務モデリングを実践として使える)
<p>○観光地における危機管理</p> <p>【授業計画】</p> <p>1. <u>はじめに(此松)</u> <u>観光地における危機と災害の特徴について</u></p> <p>2. 観光地での自然災害と対策① (此松) <u>地震災害と対策について</u></p> <p>3. 観光地での自然災害と対策② (此松) <u>風水害と対策について</u></p> <p>4. 観光地での自然災害と対策③ (此松) <u>火山災害と対策について</u></p> <p>5. 災害に強い観光地を目指すには (此松) <u>災害後の風評被害の対策について</u></p> <p>6. 観光と感染症① (小河)</p>	<p>○観光地における危機管理</p> <p>【授業計画】</p> <p>1. 観光地にとっての危機と災害について (此松)</p> <p>2. 観光地での自然災害と対策①: 地震災害について (此松)</p> <p>3. 観光地での自然災害と対策②: 風水害について (此松)</p> <p>4. 観光地での自然災害と対策③: 火山災害について (此松)</p> <p>5. 災害に強い観光地を目指すには (此松)</p> <p>6. 観光と感染症①: それ、大丈夫? 感染</p>

<p><u>感染症にかからないための対策と準備</u></p> <p>7. 観光と感染症② (小河)</p> <p><u>感染症の温故知新、過去の事例に学ぶ</u></p> <p>8. まとめ (此松)</p> <p><u>観光地にとって必要な危機管理</u></p> <p>【成績評価】</p> <p><u>各回の発言・課題への対応状況等 (30%)</u> <u>および各教員が課す最終レポート (此松</u> <u>50%、小河 20%) をもとに総合的に評価す</u> <u>る。</u></p>	<p>症にかからないために。(小河)</p> <p>7. 観光と感染症②：感染症の温故知新。 (小河)</p> <p>8. まとめ：観光地にとって必要な危機管理 (此松)</p> <p>【成績評価】</p> <p>各教員から課題を出してレポートを評価する (此松：75% 小河：25%)。</p>
<p>○経営戦略</p> <p>【授業の概要】</p> <p><u>近年、地域・社会における様々な問題は</u> <u>経済的な問題に起因するとみられる傾向が</u> <u>強く、それらの解決を図るには、短期的な</u> <u>思考ではなく、長期的な視点に立った戦略</u> <u>的思考が必要だと考えられている。その</u> <u>ためには、地域外の組織を含めた全体的な</u> <u>競争的環境の中で長期的・継続的に価値を</u> <u>作り出す仕組みをいかにデザインし、それ</u> <u>をいかに維持するかが重要であると考えら</u> <u>れる。</u></p> <p><u>それゆえ、地域で観光を手段として活用</u> <u>する際には、観光産業の全体の構造、およ</u> <u>びその環境条件を把握したうえで、地域と</u> <u>しての全体的な方向性を設定し、地域にお</u> <u>ける様々な個別企業の活動をその方向に向</u> <u>けて連動させて活動する必要がある。</u></p> <p><u>そこで、この講義では、その際に必要と</u> <u>考えられる経営戦略的思考方を解説すると</u> <u>ともに、地域で選択可能な活動のあり方を</u> <u>考えてもらう。</u></p> <p>【授業計画】</p> <p>1. はじめに ～地域産業における観光の</p>	<p>○地域産業と観光</p> <p>【授業の概要】</p> <p>地域で観光を用いる際に必要と考えられるビジネス的思考方を解説するとともに、その重要性を理解してもらう。</p> <p>近年、地域・社会における様々な問題は経済的な問題に起因するとみられる傾向が強く、それらの解決を図るには、短期的な思考ではなく、長期的な視点に立った思考が必要だと考えられている。そのためには、長期的・継続的に価値を作り出す仕組みをいかにデザインし、それを維持するかが重要であると考えられている。</p> <p>そこで、この講義では観光産業の全体の構造およびその環境条件を把握してもらったうえで、地域で可能な産業のあり方を考えてもらう。</p> <p>【授業計画】</p> <p>1. はじめに ～地域産業における観光の</p>

<p>位置づけ～</p> <p>2. 観光産業の特徴 日本の経済発展と観光産業</p> <p>3. 外部環境分析（1） <u>C-PEST 分析 –政治・経済・社会・技術的環境–</u></p> <p>4. 外部環境分析（2） C-PEST 分析 –競争的環境–</p> <p>5. 内部構造分析（1） 価値連鎖分析、有効性分析</p> <p>6. 内部構造分析（2） 製品ライフサイクル分析</p> <p>7. 内部構造分析（3） 産業連関分析</p> <p>8. まとめ ～地域産業における観光のあり方～</p> <p>【到達目標】 近年、地域経済を活性化する際に用いられる観光の重要性を理解し、<u>観光産業の特徴および地域を取り巻く様々な環境諸条件を把握した上で内部構造を考察することで、地域で観光を用いる際の戦略的思考の重要性を理解してもらう。</u></p> <p>【成績評価】 平常評価（各回のリアクションペーパー、および、講義時における発言状況） 40% 最終レポート課題 60%</p>	<p>位置づけ～</p> <p>2. 観光産業の特徴（1） 日本の経済発展と観光</p> <p>3. 観光産業の特徴（2）観光商品の特徴</p> <p>4. 外部環境分析 C-PEST 分析</p> <p>5. 内部構造分析（1） 価値連鎖分析、有効性分析</p> <p>6. 内部構造分析（2） 製品ライフサイクル分析</p> <p>7. 内部構造分析（3） 産業連関分析</p> <p>8. まとめ ～地域産業における観光のあり方～</p> <p>【到達目標】 近年、地域経済を活性化する際に用いられる観光の重要性を理解し、それを地域だけの視点ではなく産業全体からの視点も把握することによって地域産業のあり方を考察する重要性を理解してもらう。</p> <p>【成績評価】 平常評価（各回のリアクションペーパー、および、講義時における発言） 40% 最終レポート課題 60%</p>
<p>○ヴァーチャル観光</p> <p>【成績評価】 授業内での発表と議論への参加状況（30%）とコンテンツ制作（20%）と最終レポート（50%）によって総合的に評価する。</p>	<p>○ヴァーチャル観光</p> <p>【成績評価】 授業内での発表と議論（30%）とコンテンツ制作（20%）と最終レポート（50%）によって総合的に評価する。</p>
<p>○人的資源管理</p>	<p>○人的資源管理</p>

<p>【授業計画】</p> <p>1. はじめに <u>人的資源管理論の全体像，実践的問題解決のための定量的分析手法の基礎知識</u></p> <p>2. 人的資源管理の基礎理論（1） <u>採用，人材育成に関するグループ発表</u></p> <p>3. 人的資源管理の基礎理論（2） <u>人事評価，報酬管理に関するグループ発表</u></p> <p>4. <u>所属組織における実践的課題の解決に向けて（1）分析モデルと仮説の設定</u></p> <p>5. <u>所属組織における実践的課題の解決に向けて（2）質問票の作成</u></p> <p>6. <u>所属組織における実践的課題の解決に向けて（3）データ入力・分析①</u></p> <p>7. <u>所属組織における実践的課題の解決に向けて（4）データ分析②</u></p> <p>8. <u>まとめ</u> 分析結果の発表と講評</p>	<p>【授業計画】</p> <p>1. はじめに ～人的資源管理論の全体像，実践的問題解決のための定量的分析手法の基礎知識～</p> <p>2. 人的資源管理の基礎理論（1）採用，人材育成に関するグループ発表</p> <p>3. 人的資源管理の基礎理論（2）人事評価，報酬管理に関するグループ発表</p> <p>4. 所属組織における実践的課題を解決するための分析モデルと仮説の設定</p> <p>5. 質問票の作成</p> <p>6. データ入力・分析①</p> <p>7. データ分析②</p> <p>8. 分析結果の発表と講評</p>
<p>○観光地マーケティング</p> <p>【授業計画】</p> <p>1. マーケティングとマーケティングコンセプト（佐々木） <u>マーケティングの基本発想である顧客志向について</u></p> <p>2. 環境分析と市場機会の発見（佐々木） <u>内部資源と外部環境をどのようにして把握するか</u></p> <p>3. セグメンテーション、ターゲティング、ポジショニング（佐々木） <u>マーケティング戦略策定の出発点を理解する</u></p> <p>4. マーケティングミックス（1）（佐々木）</p>	<p>○観光地マーケティング</p> <p>【授業計画】</p> <p>1. マーケティングとマーケティングコンセプト（佐々木）</p> <p>2. 環境分析と市場機会の発見（佐々木）</p> <p>3. セグメンテーション、ターゲティング、ポジショニング（佐々木）</p> <p>4. マーケティングミックス（1）：製品政策、価格政策（佐々木）</p>

<p><u>製品政策と価格政策について</u></p> <p>5. マーケティングミックス (2) (佐々木)</p> <p><u>チャネル政策について</u></p> <p>6. マーケティングミックス (3) (佐々木)</p> <p><u>プロモーション政策について</u></p> <p>7. サービスマーケティングと顧客関係管理 (佐々木)</p> <p><u>有形財と無形財は何が異なるのか</u></p> <p>8. デスティネーションマーケティング (佐々木)</p> <p><u>観光地域にマーケティングを適用するためには</u></p> <p>9. ブランドとブランド価値 (佐々木)</p> <p><u>ブランドエクイティ概念の基礎について</u></p> <p>10. ブランドレゾナンスモデル (佐々木)</p> <p><u>ブランド価値構築の各段階について</u></p> <p>11. ブランドマーケティングプログラムの立案と実行 (佐々木)</p> <p><u>ブランド価値構築におけるマーケティング活動のあり方</u></p> <p>12. 地域のブランディング (1) (北村)</p> <p><u>事例をもとに地域のブランディングを考える</u></p> <p>13. 地域のブランディング (2) (北村)</p> <p><u>事例をもとに地域のブランディングを考える</u></p> <p>14. 地域のブランディング (3) (北村)</p> <p><u>事例をもとに地域のブランディングを考える</u></p>	<p>5. マーケティングミックス (2) : チャネル政策 (佐々木)</p> <p>6. マーケティングミックス (3) : プロモーション政策 (佐々木)</p> <p>7. サービスマーケティングと顧客関係管理 (佐々木)</p> <p>8. デスティネーションマーケティング (佐々木)</p> <p>9. ブランドとブランド価値 (佐々木)</p> <p>10. ブランドレゾナンスモデル (佐々木)</p> <p>11. ブランドマーケティングプログラムの立案と実行 (佐々木)</p> <p>12. 地域のブランディングと事例の紹介 (1) (北村)</p> <p>13. 地域のブランディングと事例の紹介 (2) (北村)</p> <p>14. 地域のブランディングと事例の紹介 (3) (北村)</p>
--	---

15. まとめ (佐々木・北村)	15. まとめ (佐々木・北村)
<p>○観光地ビジュアルデザイン</p> <p>【授業の概要】</p> <p>観光における様々なシーンにデザインは深く関わっている。観光商品を訴求するためにも、観光資源の体験を円滑にするためにも、地域アイデンティティを明確化しブランド力を向上させるためにも、<u>観光地</u>はあらゆるビジュアルを意図的整合性をもって効果的にデザインし、観光客とのビジュアルコミュニケーションを最適化する必要がある。この授業では<u>観光地</u>の視覚的なデザインの現状に見られる様々な現象と課題について具体的な事例をもとに学び、<u>観光地</u>の問題解決に対するデザイン的なアプローチについて考察する。</p> <p>【到達目標】</p> <p><u>観光地</u>を視覚的により良い環境にマネジメントし、観光客とのビジュアルコミュニケーションを快適で効果的なものにするデザイン的なアプローチについて理解を深め、<u>観光地</u>の社会的価値を創造し具体化するためのデザイン的な視点を身につける。</p> <p>【成績評価】</p> <p>レポート<u>提出</u>を持って課題点とし、授業への参加状況（発言等）との総合評価で採点します（課題点：70%、参加状況30%程度）。各レポートで課されたテーマに対する調査方法や内容の妥当性、課題発見能力、テーマに関する理解の深度、報告資料の作成と発表能力を総合的に評価します。</p>	<p>○ビジュアルデザイン</p> <p>【授業の概要】</p> <p>観光における様々なシーンにデザインは深く関わっている。観光商品を訴求するためにも、観光資源の体験を円滑にするためにも、地域アイデンティティを明確化しブランド力を向上させるためにも、<u>観光地域</u>はあらゆるビジュアルを意図的整合性をもって効果的にデザインし、観光客とのビジュアルコミュニケーションを最適化する必要がある。この授業では<u>観光地域</u>の視覚的なデザインの現状に見られる様々な現象と課題について具体的な事例をもとに学び、<u>観光地域</u>の問題解決に対するデザイン的なアプローチについて考察する。</p> <p>【到達目標】</p> <p><u>観光地域</u>を視覚的により良い環境にマネジメントし、観光客とのビジュアルコミュニケーションを快適で効果的なものにするデザイン的なアプローチについて理解を深め、<u>観光地域</u>の社会的価値を創造し具体化するためのデザイン的な視点を身につける。</p> <p>【成績評価】</p> <p>レポートを持って課題点とし、授業への参加状況（発言等）との総合評価で採点します（課題点：70%、参加状況30%程度）。各レポートで課されたテーマに対する調査方法や内容の妥当性、課題発見能力、テーマに関する理解の深度、報告資料の作成と発表能力を総合的に評価します。</p>
○観光地プロデュース	○観光地プロデュース

<p>【成績評価】 授業の準備状況・議論での発言状況(50%)、 課題およびプレゼンテーション内容(50%) をもって総合的に評価する。</p>	<p>【成績評価】 授業の準備状況・議論での発言状況(50%)、 課題およびプレゼンテーション(50%)を もって総合的に評価する。</p>
<p>○地域映像プロデュース</p> <p>【授業計画】</p> <p>1. ガイダンス <u>観光映像や地域プロモーション映像の概 要について学ぶ。</u></p> <p>2. 観光プロモーションの流れについて <u>発注者から制作者、その後のマーケティ ングの工程について学ぶ。</u></p> <p>3. 企画書の書き方 <u>映像製作にはターゲット、ゴールの設定 が必要である。企画書の書き方を学ぶ。</u></p> <p>4. 映像制作の仕様書 <u>観光映像の尺やデジタルマーケティング などの仕様の概念について学ぶ。</u></p> <p>5. ターゲットとデジタルマーケティング <u>ターゲットをどのように設定し、映像を 届けるか、の手法を学ぶ。</u></p> <p>6. 映像制作1：企画書 <u>ここまでに学んだことを踏まえて、企画 書を書く。</u></p> <p>7. 映像制作2：ストーリーボード <u>効果的な映像製作のための物語を考え る。</u></p> <p>8. 映像撮影技術1：カメラの使い方 <u>カメラの特性と、得られる効果について 学ぶ。</u></p> <p>9. 映像撮影技術2：撮影技法 <u>撮影技法を学び、その特徴を学ぶ。</u></p> <p>10. 映像制作3：人の撮影 <u>人物撮影を行い、その工夫すべき点を学 ぶ。</u></p>	<p>○地域映像プロデュース</p> <p>【授業計画】</p> <p>1. ガイダンス</p> <p>2. 観光プロモーションの流れについて</p> <p>3. 企画書の書き方</p> <p>4. 映像制作の仕様書</p> <p>5. ターゲットとデジタルマーケティング</p> <p>6. 映像制作1：企画書</p> <p>7. 映像制作2：ストーリーボード</p> <p>8. 映像撮影技術1：カメラの使い方</p> <p>9. 映像撮影技術2：撮影技法</p> <p>10. 映像制作3：人の撮影</p>

<p>1 1.映像制作4：風景の撮影 <u>風景撮影を行い、その工夫すべき点を学ぶ。</u></p> <p>1 2.映像制作5：編集 <u>編集を実際に行い、その工夫すべき点を学ぶ。</u></p> <p>1 3.映像制作6：オーサリング <u>納品すべきデータの扱いについて学ぶ。</u></p> <p>1 4.プレゼンテーションと講評会 <u>制作した映像を講評する。</u></p> <p>1 5.まとめ <u>実際の観光映像を見ながら、その背景について討論する。</u></p>	<p>1 1.映像制作4：風景の撮影</p> <p>1 2.映像制作5：編集</p> <p>1 3.映像制作6：オーサリング</p> <p>1 4.プレゼンテーションと講評会</p> <p>1 5.まとめ</p>
<p>○観光ツアープランニング 【成績評価】 授業の準備状況・議論での発言状況(50%)、課題およびプレゼンテーション<u>内容</u>(50%)をもって総合的に評価する。</p>	<p>○観光ツアープランニング 【成績評価】 授業の準備状況・議論での発言状況(50%)、課題およびプレゼンテーション(50%)をもって総合的に評価する。</p>
<p>○リーダーシップとコミュニケーション 【授業の概要】 地域をマネジメントする際に必要と考えられる組織および組織行動の理論を解説するとともにリーダーシップの本質を学ぶ。 近年、地域における観光運営を行う場合、公式な組織構造的つながり(指示・命令)だけではなく、「考え方を共有する」といったような非公式な影響力が重視されることが多い。これは、地域を主体としてマネジメントを行う際には、そもそもは別の組織であるものたちが集まって<u>コミュニケーション</u>を図り、活動の方向性を共有することが必要であり、そこには一般的な企業で用いられる責任と権限のつながりだけではなく、リーダーシップといわれるような本質</p>	<p>○リーダーシップとコミュニケーション 【授業の概要】 地域をマネジメントする際に必要と考えられる組織および組織行動の理論を解説するとともにリーダーシップの本質を学ぶ。 近年、地域における観光運営を行う場合、公式な組織構造的つながり(指示・命令)だけではなく、「考え方を共有する」といったような非公式な影響力が重視されることが多い。これは、地域を主体としてマネジメントを行う際には、そもそもは別の組織であるものたちが集まって、活動の方向性を共有することが必要であり、そこには一般的な企業で用いられる責任と権限のつながりだけではなく、リーダーシップといわれるような本質的な人間的つながりが必要だ</p>

<p>的な人間的つながりが必要だと考えられているからである。</p> <p>そこで、この講義では組織・組織行動の諸理論を概観し、人間間の影響力について解説する。</p> <p>【授業計画】</p> <p><u>1. はじめに</u> <u>地域における組織とは</u></p> <p><u>2. 組織とは (1)</u> <u>協働体系と組織</u></p> <p><u>3. 組織とは (2)</u> <u>組織と管理</u></p> <p><u>4. 組織とは (3)</u> <u>権限と権威</u></p> <p><u>5. 組織行動における意思決定 (1)</u> <u>意思決定における事実と価値</u></p> <p><u>6. 組織行動における意思決定 (2)</u> <u>経営行動における合理性</u></p> <p><u>7. 組織行動における意思決定 (3)</u> <u>経営過程と合理性</u></p> <p><u>8. 組織行動における意思決定 (4)</u> <u>組織均衡</u></p> <p><u>9. リーダーシップのとらえ方 (1)</u> <u>特性アプローチ、行動アプローチ</u></p> <p><u>10. リーダーシップのとらえ方 (2)</u> <u>コンティンジェンシー・アプローチ</u></p> <p><u>11. リーダーシップのとらえ方 (3)</u> <u>変革型リーダーシップ</u></p> <p><u>12. 組織行動とリーダーシップ (1)</u> <u>チームにおけるリーダーシップの目的</u></p> <p><u>13. 組織行動とリーダーシップ (2)</u> <u>チームにおけるリーダーシップとはなにか</u></p> <p><u>14. 組織行動とリーダーシップ (3)</u> <u>個人間の影響力とはなにか</u></p>	<p>と考えられているからである。</p> <p>そこで、この講義では組織・組織行動の諸理論を概観し、人間間の影響力について解説する。</p> <p>【授業計画】</p> <p>1. はじめに ～地域における組織とは～</p> <p>2. 組織とは (1) 協働体系と組織、組織と管理</p> <p>3. 組織とは (2) 権限と権威</p> <p>4. 組織行動における意思決定 (1) 意思決定における事実と価値、経営行動における合理性</p> <p>5. 組織行動における意思決定 (2) 経営過程と合理性、組織均衡</p> <p>6. 組織行動とリーダーシップ (1) リーダーシップの目的</p> <p>7. 組織行動とリーダーシップ (2) リーダーシップとはなにか</p> <p>8. まとめ ～個人間の影響力とはなにか～</p>
--	--

<p><u>15. まとめ</u></p> <p>【到達目標】 地域において複数の組織が連動し<u>一定のコミュニケーションのもとで活動すること</u>の重要性が高まっていることを理解のもとに、個別の組織が活動することとの違いを理解する。また、人間間的影響力の重要性を解釈し、それを実践において活用できる能力を身につける。</p> <p>【成績評価】 平常評価（各回のリアクションペーパー、および、講義時における<u>発言状況</u>） 40% 最終レポート課題 60%</p>	<p>【到達目標】 地域において複数の組織が連動し活動することの重要性が高まっていることを理解のもとに、個別の組織が活動することとの違いを理解する。また、人間間的影響力の重要性を解釈し、それを実践において活用できる能力を身につける。</p> <p>【成績評価】 平常評価（各回のリアクションペーパー、および、講義時における発言） 40%最終レポート課題 60%</p>
<p>○観光地域マネジメントの潮流</p> <p>【成績評価】 <u>ディスカッションへの参画状況</u>およびその<u>内容の評価</u>(50%)、授業レポート (50%) をもって総合的に評価する。</p>	<p>○観光地域マネジメントの潮流</p> <p>【成績評価】 ディスカッションおよびその評価(50%)、授業レポート (50%) をもって総合的に評価する。</p>
<p>○持続可能な観光指標分析演習</p> <p>【成績評価】 •持続可能性の国際的課題に関するリサーチおよび<u>プレゼンテーション内容</u> 20% •地域課題に関する<u>プレゼンテーション内容</u> 20% •JSTS-D に基づく<u>地域評価レポート</u> 60%</p>	<p>○持続可能な観光指標分析演習</p> <p>【成績評価】 •持続可能性の国際的課題に関するリサーチ、<u>プレゼンテーション</u> 20% •<u>地域課題</u>に関する<u>プレゼンテーション</u> 20% •JSTS-Dに基づく<u>地域評価</u> 60%</p>

<p>○プロフェッショナルライティングⅠ</p> <p>【成績評価】</p> <p>授業の準備状況・発言等の参加状況（40%）、完成した計画書のプレゼンテーション<u>内容</u>（60%）をもって総合的に評価する。</p>	<p>○プロフェッショナルライティングⅠ</p> <p>【成績評価】</p> <p>授業の準備状況・発言等の参加状況（40%）、完成した計画書のプレゼンテーション（60%）をもって総合的に評価する。</p>
<p>○観光地域プロジェクトⅠ</p> <p>【成績評価】</p> <p>現地での実習の活動状況（50%）、演習への参加状況・発言<u>状況</u>（20%）、プロジェクト報告会でのプレゼンテーション<u>内容</u>（30%）をもとに総合的に評価する。</p>	<p>○観光地域プロジェクトⅠ</p> <p>【成績評価】</p> <p>現地での実習の活動状況（50%）、演習への参加状況・発言（20%）、プロジェクト報告会でのプレゼンテーション（30%）をもとに総合的に評価する。</p>
<p>○観光地域プロジェクトⅡ</p> <p>現地での実習の活動状況（50%）、演習への参加状況・発言<u>状況</u>（20%）、プロジェクト報告会でのプレゼンテーション<u>内容</u>（30%）をもとに総合的に評価する。</p>	<p>○観光地域プロジェクトⅡ</p> <p>現地での実習の活動状況（50%）、演習への参加状況・発言（20%）、プロジェクト報告会でのプレゼンテーション（30%）をもとに総合的に評価する。</p>
<p>○プロフェッショナルライティングⅡ</p> <p>【成績評価】</p> <p>授業の準備状況・発言等の参加状況（40%）、完成した計画書のプレゼンテーション<u>内容</u>（60%）をもって総合的に評価する。</p>	<p>○プロフェッショナルライティングⅡ</p> <p>【成績評価】</p> <p>授業の準備状況・発言等の参加状況（40%）、完成した計画書のプレゼンテーション（60%）をもって総合的に評価する。</p>

(新旧対照表) シラバス 配当年次等の変更 (4、7、8、11、15、23 ページ)

新	旧
グループワーク手法	グループワーク手法

1年1Q	2年1Q
会計学 1年3Q	会計学 1年2Q
経営理念 1年3Q	経営理念 1年2Q
ビジネスモデル 2年1Q	ビジネスモデル 1年3Q
ファイナンシャルマネジメント 1年4Q	ファイナンシャルマネジメント 1年3Q
リーダーシップとコミュニケーション 1年3・4Q	リーダーシップとコミュニケーション 1年3Q

(新旧対照表) 基本計画書 1ページ

新				旧			
開設する授業科目の総数				開設する授業科目の総数			
講義	演習	実験・実習	計	講義	演習	実験・実習	計
21科目	7科目	3科目	31科目	20科目	7科目	3科目	30科目

■ 専門職大学院の DP・CP・AP (補正後)

ディプロマポリシー

DP1 観光倫理と持続可能性の理解
 観光地の地域課題および地球規模の社会課題に対し観光が果たしうる役割について、観光倫理と持続可能性の視座を通じて深い理解を有している。

DP2 地域価値の創造実現能力
 地域が有する顕在的・潜在的な観光資源を基礎として、地域の社会的価値を創造し具現化する能力を備えている。

DP3 地域社会との協働的関係性構築能力
 自立し持続可能な観光地域の実現に向けた共通目標設定のため、地域社会との建設的なコミュニケーションに基づく協働的関係性の構築能力を備えている。

DP4 データ分析に基づく戦略的意思決定能力
 観光地域マネジメントに必要な情報となる情報を効率的に収集整理した上で、定量的・定性的手法によるデータ分析を実施し、戦略的意思決定を先導する能力を備えている。

カリキュラムポリシー

CP1 基盤科目
 地域課題や社会課題を理解し、地域の資源から社会的価値を見出すとともに、それらに対応した観光地域マネジメントに必要な基礎的な概念・知識・能力を身につけるための基盤科目を置く。

CP2 専門科目
 地域社会との協働により、地域固有の観光資源を地域の社会的価値として磨き上げ、高付加価値・革新的な観光地域の実現を目指すための専門的な知識を学ぶ専門科目を置く。

CP3 実践科目
 観光地域マネジメントに必要な情報となる情報の収集・整理・分析のための知識・能力を身につけ、実地におけるプロジェクトの実践を通じて観光地域の戦略的意思決定を総合的に学ぶ実践科目を置く。

アドミッションポリシー

AP1 志望分野の基礎能力・実践知
 観光地域マネジメントに関する高度な専門性を身につける基礎となる知識・技能・能力を有する人。地域での活動経験を通して実践知のある人。

AP2 地域の発展に寄与する使命感
 主体的に新しいことに挑戦し、観光地域マネジメント分野において社会に貢献しようとする意欲や態度を有する人。

AP3 問題意識
 明確な問題意識を持ち、他者と協働して観光地域マネジメント分野における課題解決や地域の新たな価値創造に取り組む意欲や態度を有する人。

--- CPとAPの関係性

— DPとCPの関係性
 線の太さは関係性の強さを示す

ディプロマポリシー

DP1 観光倫理と持続可能性の理解	観光地の地域課題および地球規模の社会課題に対し観光が果たしうる役割について、観光倫理と持続可能性の視座を通じた深い理解を有している。
DP2 地域価値の創造実現能力	地域が有する顕在的・潜在的な観光資源を基礎として、地域の社会的価値を創造し具現化する能力を備えている。
DP3 地域社会との協働的関係性構築能力	自立し持続可能な観光地域の実現に向けた共通目標設定のため、地域社会との建設的なコミュニケーションに基づき協働的関係性の構築能力を備えている。
DP4 データ分析に基づく戦略的意思決定能力	観光地域マネジメントに必要な情報となる情報を効率的に収集整理した上で、定量的・定性的手法によるデータ分析を実施し、戦略的意思決定を先導する能力を備えている。

カリキュラムポリシー

CP1 基盤科目	地域の顕在的・潜在的な観光資源から社会的価値を見出し意味づけるとともに、観光地の地域課題や地球規模の社会課題を理解し、それらに対応した観光地域マネジメントに必要な基礎的な概念・知識・能力を身につけるための基盤科目を置く。
CP2 専門科目	地域固有の資源を地域の社会的価値として磨き上げ、高付加価値・革新的な観光地域の実現を目指すための専門的な概念・知識を学ぶ専門科目を置く。
CP3 地域共創科目	地域社会との協働的関係性の構築のプロセスにおける意思決定やコミュニケーション形成のあり方・手法を学ぶ地域共創科目を置く。
CP4 実践科目	観光地が抱える地域課題の理解を土台として、観光地域マネジメントに必要な情報収集整理およびデータ分析に基づく戦略策定を実施し、実地におけるプロジェクトにおいて地域の共通目標を設定し遂行する実践科目を置く。

アドミッションポリシー

AP1 志望分野の基礎能力・実践知	観光地域マネジメントに関する高度な専門性を身につける基礎となる知識・技能、能力を有する人。地域での活動経験を通して実践知のある人。
AP2 地域の発展に寄与する使命感	主体的に新しいことに挑戦し、観光地域マネジメント分野において社会に貢献しようとする意欲や態度を有する人。
AP3 問題意識	明確な問題意識を持ち、他者と協働して観光地域マネジメント分野における課題解決や地域の新たな価値創造に取り組む意欲や態度を有する人。

■専門職大学院カリキュラムマップ（補正後）

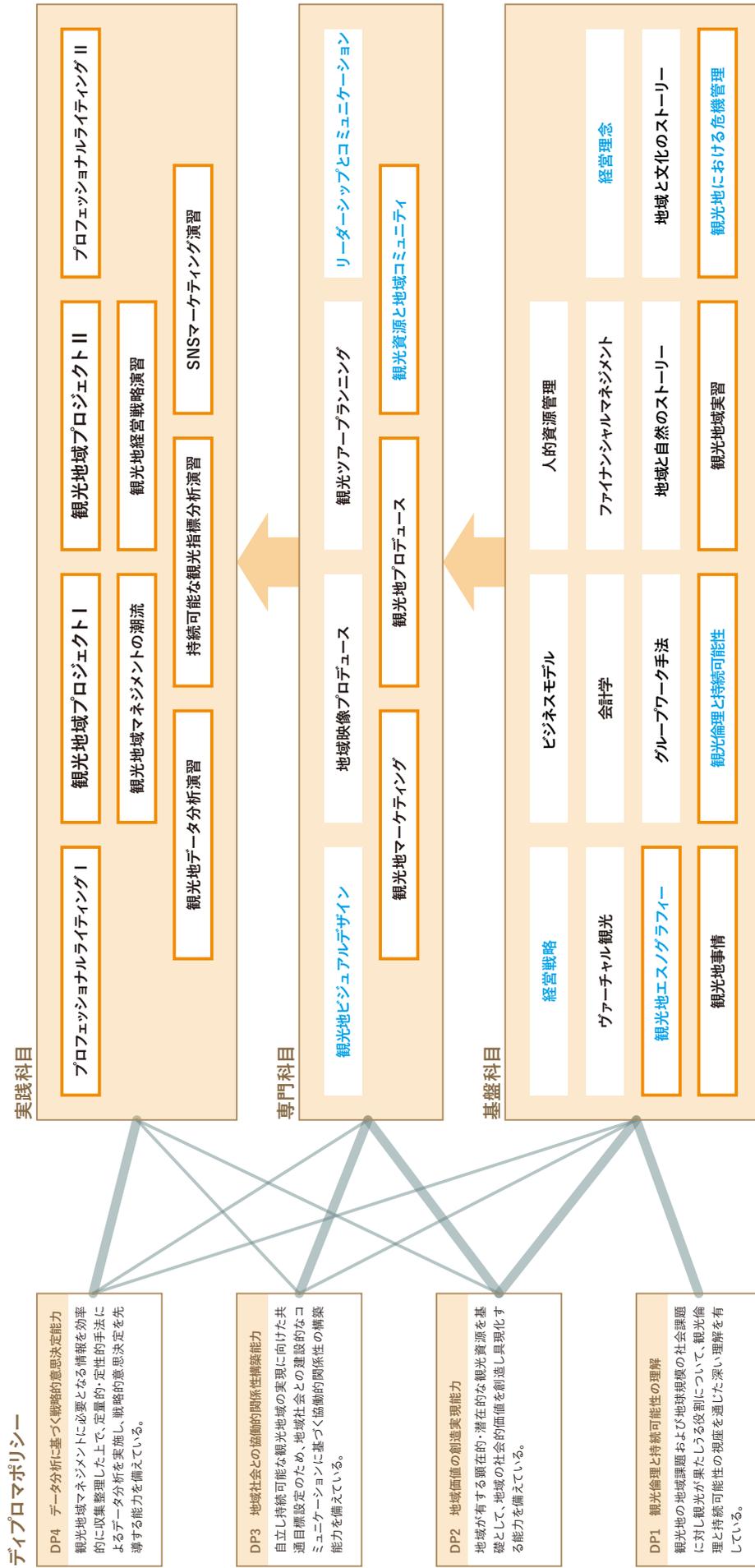
区分	授業科目名	DP1	DP2	DP3	DP4
基盤科目	☆観光地事情	◎			
	☆観光倫理と持続可能性	◎			
	☆観光地域実習	◎			
	☆観光地における危機管理	◎			
	グループワーク手法			○	
	☆観光地エスノグラフィー		◎	○	
	地域と自然のストーリー		◎	○	
	地域と文化のストーリー		◎	○	
	ヴァーチャル観光		◎		
	会計学				○
	ファイナンシャルマネジメント				○
	経営理念				○
	経営戦略				○
	ビジネスモデル				○
人的資源管理				○	
専門科目	☆観光地マーケティング		◎		○
	観光地ビジュアルデザイン		◎		
	☆観光地プロデュース		◎		
	地域映像プロデュース		◎		
	観光ツアープランニング		◎		
	☆観光資源と地域コミュニティ		○	◎	
	リーダーシップとコミュニケーション			◎	○
実践科目	☆観光地データ分析演習				◎
	☆持続可能な観光指標分析演習				◎
	☆SNS マーケティング演習				◎
	☆観光地域マネジメントの潮流				◎
	☆観光地経営戦略演習		○	○	◎
	☆プロフェッショナルライティング I		○	○	◎
	☆観光地域プロジェクト I		○	○	◎
	☆観光地域プロジェクト II		○	○	◎
	☆プロフェッショナルライティング II		○	○	◎

☆必修科目

■専門職大学院カリキュラムマップ（補正前）

区分	授業科目名	DP1	DP2	DP3	DP4
基盤科目	観光地事情	○			
	持続可能な観光基礎	○			
	観光地域実習	○			
	観光ドキュメンタリー	○	○		
	会計学		○		○
	ファイナンシャルマネジメント		○		○
	地域と自然のストーリー	○	○		
	地域と文化のストーリー	○	○		
	観光と経営理念		○		○
	観光と危機管理	○	○		○
	人的資源管理		○		○
	ヴァーチャル観光		○		
専門科目	観光地マーケティング		○		
	ビジュアルデザイン		○	○	
	観光地プロデュース		○	○	
	地域映像プロデュース		○	○	
	観光ツアープランニング		○	○	
地域共創科目	リーダーシップとコミュニケーション			○	○
	ビジネスモデル			○	○
	地域産業と観光	○		○	
	グループワーク手法			○	
実践科目	観光地域マネジメントの潮流	○			○
	観光地データ分析演習				○
	持続可能な観光指標分析演習	○			○
	SNS マーケティング演習				○
	観光地経営戦略演習		○	○	○
	プロフェッショナルライティングⅠ		○	○	○
	観光地域プロジェクトⅠ		○	○	○
	観光地域プロジェクトⅡ		○	○	○
プロフェッショナルライティングⅡ		○	○	○	

■ 専門職大学院カリキュラム・ツリー (補正後)



必修



DPとCPの関係性

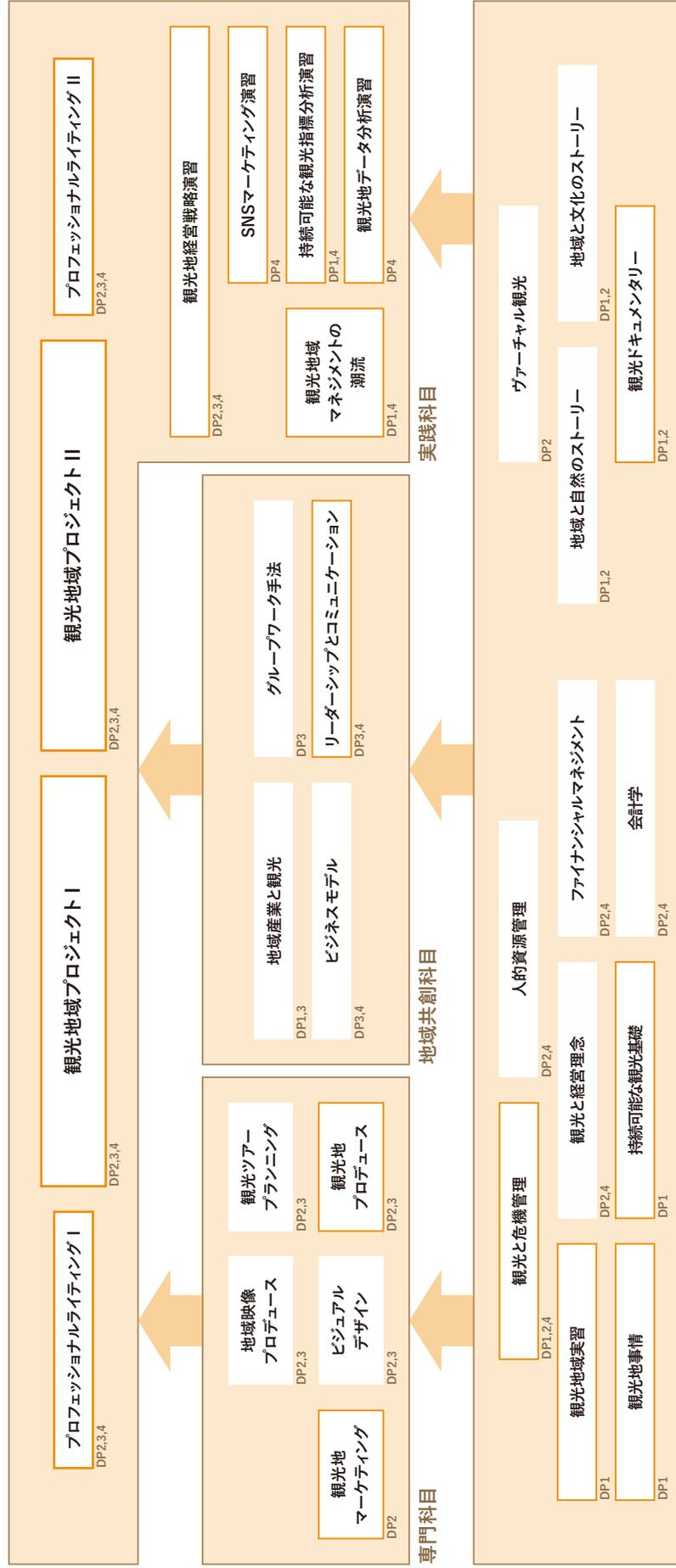


線の太さは関係性の強さを示す



■ 専門職大学院カリキュラム・ツリー（補正前）

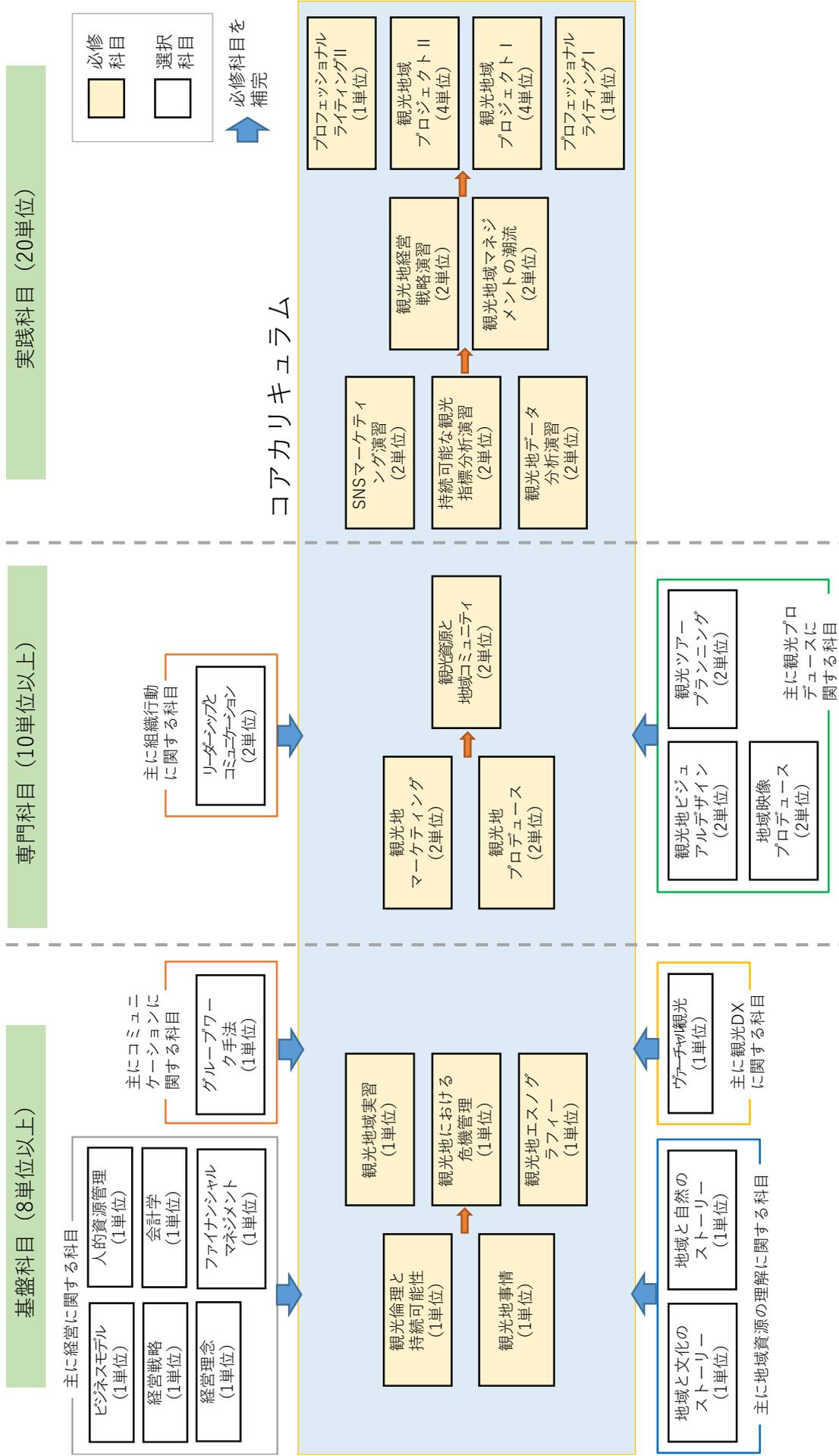
- DP1 観光倫理と持続可能性の理解**
 観光地の地域課題および地球規模の社会課題に対し観光が果たしうる役割について、観光倫理と持続可能性の規程を通じた深い理解を有している。
- DP2 デイプロマポリシー**
 観光地の地域課題および地球規模の社会課題に対し観光が果たしうる役割について、観光倫理と持続可能性の規程を通じた深い理解を有している。
- DP2 地域価値の創造実現能力**
 地域が有する顕在的・潜在的な観光資源を基礎として、地域の社会的価値を創造し具現化する能力を備えている。
- DP3 地域社会との協働的関係性構築能力**
 自立し持続可能な観光地域の実現に向けた共通目標構築のため、地域社会との建設的なコミュニケーションに基づき協働的関係性の構築能力を備えている。
- DP4 データ分析に基づく戦略的意思決定能力**
 観光地域マネジメントに必要な情報効率的に収集整理した上で、定量的・定性的手法によるデータ分析を実施し、戦略的意思決定を先導する能力を備えている。



必修

■ 専門職大学院履修イメージ(補正後)

- ▶ コアカリキュラムは必修科目17科目で構成
- ▶ コアカリキュラムとそれを補完する選択科目から計38単位を修得

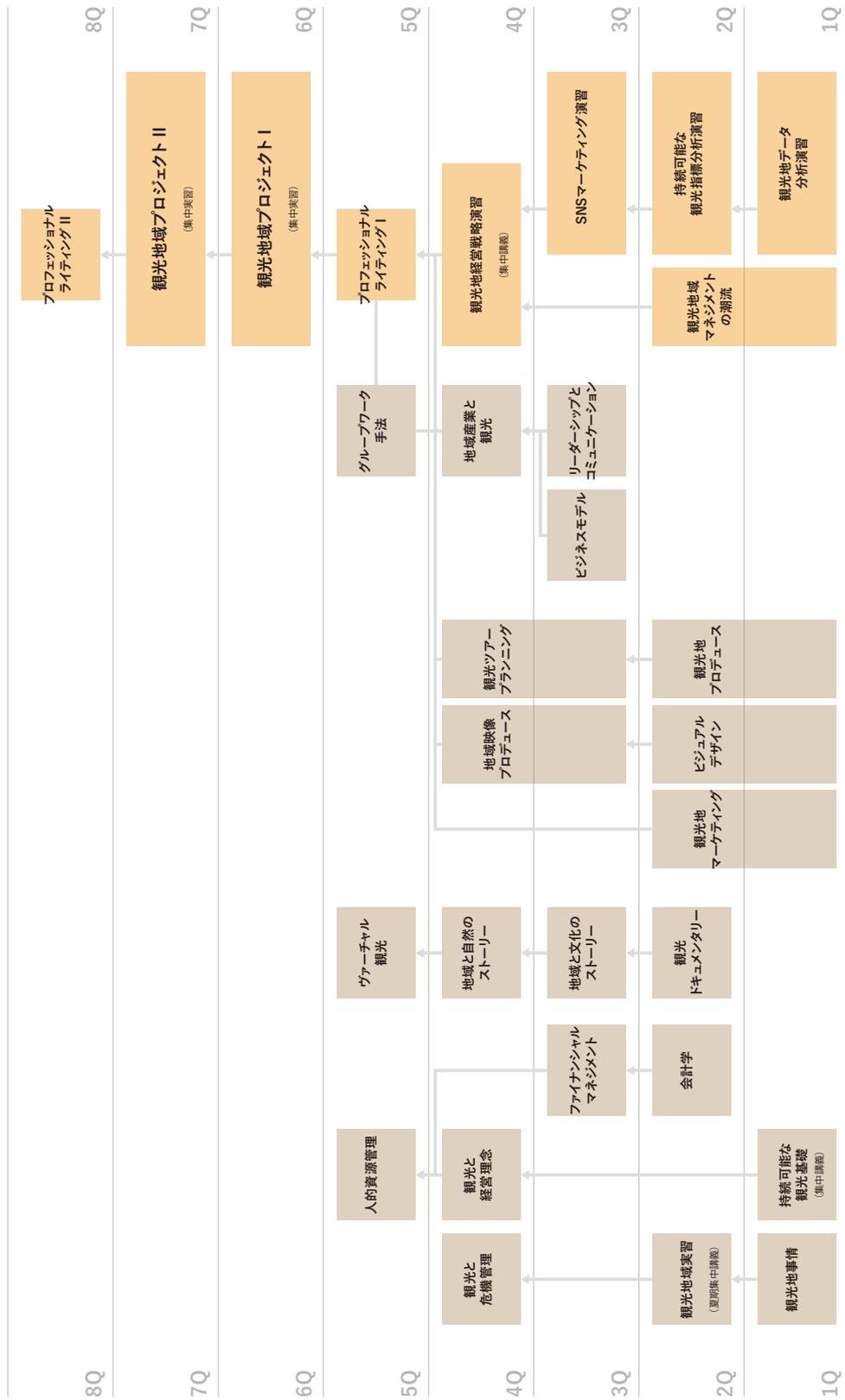


(CP1) 地域課題や社会課題を理解し、地域の資源から社会的価値を見出すとともに、それらに対応した観光地域マネジメントに必要な基礎的な概念・知識・能力を身につけるための基礎科目を置く。

(CP2) 地域社会との協働により、地域固有の観光資源を地域の社会的価値として磨き上げ、高付加価値・革新的な観光地域の実現を目指すための専門的な知識を学ぶ専門科目を置く。

(CP3) 観光地域マネジメントに必要な情報の収集・整理・分析のための知識・能力を身につけ、実地におけるプロジェクトの実践を通じて観光地域の戦略的意思決定を総合的に学ぶ実践科目を置く。

■ 専門職大学院履修イメージ (補正前)



基礎科目 7単位 (各1単位)
専門科目 8単位 (各2単位)
地域共創科目 3単位 (各1単位)
実践科目 20単位 (1~4単位)
 修了要件: 38単位

カリキュラムポリシー
CP1 基礎科目 地域の顕在的・潜在的な観光資源から社会的価値を見出し意味づけるとともに、観光地の地域課題や地球規模の社会課題を理解し、それらに対応した観光地地域マネジメントに必要な基礎的な概念・知識・能力を身につけるための基礎科目を置く。
CP2 専門科目 地域固有の資源を地域の社会的価値として磨き上げ、高付加価値・革新的な観光地域の実現に必要な専門的な概念・知識・能力を学ぶ専門科目を置く。
CP3 地域共創科目 地域社会との協働的関係性を構築するためのプロセスにおける意思決定やコミュニケーション形成のあり方・手法を学ぶ地域共創科目を置く。
CP4 実践科目 観光地が抱える地域課題を深く理解するとともに、観光地域マネジメントに必要な情報収集整理およびデータ分析に基づく戦略策定を実施し、実地におけるプロジェクトにおいて地域の共通目標を設定し遂行する実践科目を置く。

教育課程等の概要															
(観光学研究科観光地域マネジメント専攻(専門職大学院))															
科目区分	授業科目の名称	配当年次 (クォーター)	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
基盤科目	観光地事情	1①	1			○			6	1					オムニバス/メディア
	観光倫理と持続可能性	1①	1			○									兼1 集中/メディア
	グループワーク手法	1①		1			○								兼1 メディア
	観光地域実習	1②	1					○	6	1					集中/オムニバス/メディア/※演習含む
	観光地エスノグラフィー	1②	1			○			1						メディア
	会計学	1③		1			○								兼1 メディア
	経営理念	1③		1			○		1						メディア
	地域と文化のストーリー	1③		1			○								兼1 メディア
	地域と自然のストーリー	1④		1			○		2						兼1 オムニバス/メディア
	ファイナンシャルマネジメント	1④		1			○								兼1 メディア
	観光地における危機管理	1④	1				○								兼2 オムニバス/メディア
	経営戦略	1④		1			○			1					メディア
	ヴァーチャル観光	2①		1			○		1						メディア
	ビジネスモデル	2①		1			○		1						メディア
	人的資源管理	2①		1			○								兼1 メディア
小計(15科目)		-	5	10	0	-	-	-	6	1	0	0	0	兼5	
専門科目	観光地マーケティング	1①②	2			○			2						オムニバス/メディア
	観光地ビジュアルデザイン	1①②		2			○		1						メディア
	観光地プロデュース	1①②	2				○			1					メディア
	地域映像プロデュース	1③④		2			○		1						メディア
	観光ツアープランニング	1③④		2			○			1					メディア
	観光資源と地域コミュニティ	1③④	2				○		1						メディア
	リーダーシップとコミュニケーション	1③④		2			○			1					メディア
小計(7科目)		-	6	8	0	-	-	4	2	0	0	0	0		
実践科目	観光地域マネジメントの潮流	1①②	2			○					1				メディア
	観光地データ分析演習	1①	2				○		1						メディア
	持続可能な観光指標分析演習	1②	2				○								兼1 メディア
	SNSマーケティング演習	1③	2				○								兼1 メディア
	観光地経営戦略演習	1④	2				○		1		1				オムニバス/集中/メディア
	プロフェッショナルライティング I	2①	1				○		7	2	1				メディア
	観光地域プロジェクト I	2②	4					○	7	2	1				※演習、集中/メディア
	観光地域プロジェクト II	2③	4					○	7	2	1				※演習、集中/メディア
	プロフェッショナルライティング II	2④	1				○		7	2	1				メディア
小計(9科目)		-	20	0	0	-	-	7	2	1	0	0	兼2		
合計(31科目)			-	31	18	0	-	-	7	2	1	0	0	兼11	
学位又は称号	観光地域マネジメント 修士(専門職)		学位又は学科の分野				社会学・社会福祉学関係								
卒業要件及び履修方法							授業期間等								
【修了要件】 専門職大学院を修了するためには、当該課程に2年以上在学し、所定の38単位以上を修得しなければならない。 【履修方法】 基盤科目8単位以上、専門科目10単位以上、実践科目20単位、合計38単位以上を修得すること。 【履修科目登録の上限】 年間38単位とする。							1学年の学期区分			4期					
							1学期の授業期間			8週					
							1時限の授業時間			90分					

教育課程等の概要															
(観光学研究科観光地域マネジメント専攻(専門職大学院))															
科目区分	授業科目の名称	配当年次 (クォーター)	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
基盤科目	観光地事情	1①	1			○			6	1				オムニバス/メディア	
	持続可能な観光基礎	1①	1			○								兼1 集中/メディア	
	観光地域実習	1②	1					○	6	1				集中/オムニバス/メディア/※演習含む	
	観光ドキュメンタリー	1②	1			○			1					メディア	
	会計学	1②		1		○								兼1 メディア	
	ファイナンシャルマネジメント	1③		1		○								兼1 メディア	
	地域と文化のストーリー	1③		1		○								兼1 メディア	
	地域と自然のストーリー	1④		1		○			2					兼1 オムニバス/メディア	
	観光と経営理念	1④		1		○			1					メディア	
	観光と危機管理	1④	1			○								兼2 オムニバス/メディア	
	人的資源管理	2①		1		○								兼1 メディア	
	ヴァーチャル観光	2①		1		○			1					メディア	
小計(12科目)		-	5	7	0				6	1	0	0	0	兼8	
専門科目	観光地マーケティング	1①②	2			○			2					オムニバス/メディア	
	ビジュアルデザイン	1①②		2		○			1					メディア	
	観光地プロデュース	1①②	2			○				1				メディア	
	地域映像プロデュース	1③④	2			○			1					メディア	
	観光ツアープランニング	1③④	2			○				1				メディア	
小計(5科目)		-	4	6	0				3	1	0	0	0	0	
地域共創科目	リーダーシップとコミュニケーション	1③	1			○				1				メディア	
	ビジネスモデル	1③		1		○			1					メディア	
	地域産業と観光	1④		1		○				1				メディア	
	グループワーク手法	2①		1			○							兼1 メディア	
小計(4科目)		-	1	3	0				1	1	0	0	0	兼1	
実践科目	観光地域マネジメントの潮流	1①②	2			○					1			メディア	
	観光地データ分析演習	1①	2				○		1					メディア	
	持続可能な観光指標分析演習	1②	2				○							兼1 メディア	
	SNSマーケティング演習	1③	2				○							兼1 メディア	
	観光地経営戦略演習	1④	2				○		1		1			オムニバス/集中/メディア	
	プロフェッショナルライティング I	2①	1				○		7	2	1			メディア	
	観光地域プロジェクト I	2②	4					○	7	2	1			※演習、集中/メディア	
	観光地域プロジェクト II	2③	4					○	7	2	1			※演習、集中/メディア	
	プロフェッショナルライティング II	2④	1				○		7	2	1			メディア	
小計(9科目)		-	20	0	0				7	2	1	0	0	兼2	
合計(30科目)			-	30	16	0				7	2	1	0	0	兼11
学位又は称号	観光地域マネジメント 修士(専門職)		学位又は学科の分野				社会学・社会福祉学関係								
卒業要件及び履修方法							授業期間等								
【修了要件】 専門職大学院を修了するためには、当該課程に2年以上在学し、所定の38単位以上を修得しなければならない。 【履修方法】 基盤科目7単位以上、専門科目8単位以上、地域共創科目3単位以上、実践科目20単位、合計38単位以上を修得すること。 【履修科目登録の上限】 年間33単位とする。							1学年の学期区分			4期					
							1学期の授業期間			8週					
							1時限の授業時間			90分					

授業科目名		観光倫理と持続可能性					
対象学生	1年	開講期間	1Q	単位数	1	授業形態	講義
担当教員	加藤 久美						
<p>【授業の概要】</p> <p>観光は国際的な基幹産業となると同時に、気候変動や来訪地の混雑など、その環境、社会的負荷が課題となってきた。国連世界観光機関 (UNWTO) の「世界観光倫理 (GCET)」では、観光で守られるべき基本的理念が 10 の原則として謳われてきたが、2030年までの国際目標であるSDGsへの意識が高まり、脱炭素目標などが具体化する今日、観光においてもその実践的対応が喫緊の課題となってきている。</p> <p>2021年11月に発表された「観光における気候変動に関するグラスゴー宣言」にもある気候変動や多様な環境危機への対策、また、飢餓や貧困の軽減、多様性やディーセントワークの推進により、豊かで持続可能な社会を築くこと、経済活動としての「利益」は事業者や来訪者のみならず、地域、環境、コミュニティーも含めた総合的な「豊かさ」につながるべきであること、これらの意識は、今や観光地域経営に関わる全ての人材に求められる。</p> <p>この科目では、環境・社会的倫理を含む「持続可能な観光地域経営」の基本理念となる「サステナビリティ」概念の歴史的成立をたどり、理論とその実践、さらにモニタリングツールなどの具体的な手法を学ぶ。バックキャストによるミッションやビジョンの策定、具体的な目標や戦略の立て方、各自が選択した観光地域のプロフィール作成 (DP)、ビジョンに基づく戦略形成、「持続可能な観光指標 (STI)」など具体的なツールの活用によるモニタリングや評価方法などを含む。各事業のサステナビリティ向上だけでなく、サプライチェーンや社会全体としての構想を持つために視野、知見を拡充していく。</p>							
<p>【授業計画】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 持続可能性理念 Only one earthからSDGsへ 2. 持続可能な観光に向けてのビジョン 1 世界観光倫理憲章 (GCET) など 3. 持続可能な観光に向けてのビジョン 2 持続可能な地域のあり方と観光の役割・課題 4. 持続可能な観光地域マネジメント 1 世界のトレンドを先行事例から学ぶ 5. 持続可能な観光地域マネジメント 2 多様なステークホルダーの視点 6. 持続可能な観光地域マネジメント 3 モニタリング、アセスメントツール 7. 持続可能な観光地域 ブランディング、マーケティングアクセス 8. まとめ 							
<p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・持続可能性、持続可能な観光、観光地域に関する基本理念を理解し、理念に基づいた「観光地域経営」の実践的方法論を学ぶ。 ・来訪地域、事業者、来訪者など多様な視点から、地域のあるべき姿を描き、バックキャストによる目標設置や具体的な評価・モニタリングツールなどの有効性についても学ぶ。 							
<p>【テキスト】</p> <p>Dieke, P., King, B., & Sharples, R. (Eds). Tourism in Development. CABI. 持続可能な観光ガイドライン (観光庁) https://www.mlit.go.jp/kankocho/content/001350849.pdf UN Sustainable Development Goals https://sdgs.un.org/goals 観光倫理憲章 https://unwto-ap.org/wp-content/uploads/2021/06/GCET2021_H.pdf</p>							
<p>【成績評価】</p> <p>各回の講義中のディスカッションペーパー (30%)、各回の小レポート (30%) に加えて、最終課題として具体的な地域をケースとした評価、プレゼン内容 (40%) をもとに総合的に評価する。</p>							

授業科目名	グループワーク手法						
対象学生	1年	開講期間	1Q	単位数	1	授業形態	演習
担当教員	佐藤 祐介						
【授業の概要】							
<p>観光地域づくりにおいては、地域住民や観光事業者相互等の合意にもとづく持続可能な地域資源の活用が求められる。そのためには、各アクターが対話し、合意形成することが必要不可欠である。</p> <p>地域づくりにおける対話の代表的な方法としては、関係者を対象とした、学習会やワークショップなどが広く行われている。この授業では、学習会やワークショップで用いられるグループワークの手法を取り扱う。</p> <p>具体的には、簡単なケースをもちいたグループワークを通じて、アイスブレイク手法、話し合いの方法、ファシリテーション手法、付箋紙等の効果的な使い方、リフレクションの方法などを、ディスカッションを行いながら学ぶことにより、地域づくりにおけるコミュニケーションのあり方を身につける。</p>							
【授業計画】							
<ol style="list-style-type: none"> グループワーク及びファシリテーションの考え方 グループワークに臨む心がけを、ファシリテーションの考えを踏まえて小ワークで実践する グループワーク1（アイスブレイク・課題提示） 入門的なグループワークを、2回にわたって実践する。初回はアイスブレイクのワーク、課題提示をおこなう グループワーク1（グループ討論・結果発表・リフレクション） 前回提示されたケース課題をもちいてグループ討論を行い、結果を発表し、全体で分かち合う グループワーク2（アイスブレイク・課題提示） 応用的なグループワークを4回にわたって実施する。初回はアイスブレイクのワーク、課題提示をおこなう グループワーク2（グループ討論1） 課題について、グループ内で役割分担を行いながら、討論の計画をたてる グループワーク2（グループ討論2） 前回に立てた計画に沿って、グループで討論を行い、グループとしての結果をまとめる グループワーク2（議論結果発表・リフレクション） グループとしての結果を全体で発表し、結果を分かち合うとともに、その結果を基に討議をふりかえる まとめ・全体ふりかえり（全体をふりかえって、学修の成果を確認する） 本演習全体でおこなった学修をふりかえり、構造化することをつうじて、学びを言語化する手がかりをつかむ 							
【到達目標】							
<ul style="list-style-type: none"> グループワークの手法を知り、実際にグループワークを運営できること 建設的なコミュニケーションに基づく協働的關係性の構築能力を備えていること 授業でのグループワークの学びをふりかえり、文章を通じて学びを言語化できること 							
【テキスト】							
特になし。							
【成績評価】							
グループワークの成果物 40%、最終レポート 60% で総合的に評価する。							

授業科目名	観光地域実習						
対象学生	1年	開講期間	2Q	単位数	1	授業形態	実習、演習
担当教員	尾久土 正己・大浦 由美・木川 剛志・北村 元成・佐々木 壮太郎・出口 竜也・竹林 浩志						
【授業の概要】							
<p>観光地域における振興策は、それぞれの地域の事情に大きく依存している。本実習では、実際の観光地の運営に必要な実践的知見を習得するため、教員とともに観光地域にフィールドワークに赴き、現地でしか見ることのできない事象を体験する。また、そのような体験で得た知見を理論化し、実践知として身につけるために、現地実習の前後に受講者間でグループディスカッションを行い観光地における諸問題について討論するほか、実地に得た知見についてのプレゼンテーションを行う。</p>							
【授業計画】							
<p>1日目 事前グループディスカッション（演習：2時間） 現地実習の事前学習として受講者間でグループディスカッションを行なう</p> <p>2～4日目 現地実習（実習：3日間×6時間） 実際の観光地域においてフィールドワークを実施する</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 観光地の現状の視察 (2) 関連するステークホルダーの取材 (3) 観光地の取りまとめを行う団体の取材 (4) その他の見学等 <p>5日目 事後グループディスカッション（演習：2時間） 現地実習の事後学習として受講者間でグループディスカッションを行なう</p> <p>6日目 プレゼンテーション（演習：2時間） 実地で得た知見を発表し成果を共有する</p>							
【到達目標】							
<p>地域固有の社会的価値をどのように発見するのか、その具体的かつ実践的な手法を学ぶ。地域独自の背景を理解し、その解決に至る課程を理解する。</p>							
【テキスト】							
<p>授業内で必要な資料を配布する。</p>							
【成績評価】							
<p>グループディスカッションにおける議論への参加状況（30%）、プレゼンテーション内容（30%）、実習をもとにした個人レポート（40%）で総合的に評価する。</p>							

授業科目名		観光地エスノグラフィー					
対象学生	1年	開講期間	2Q	単位数	1	授業形態	講義
担当教員	木川 剛志						
【授業の概要】							
<p>観光地域には様々な立場の人々が存在し、それぞれの役割が複雑に交差し、地域社会を構築している。このような地域社会を理解するには、地域に深く関わって参与することが必要となる。</p> <p>このように地域社会内部に入り込むことによってコミュニケーションを重ね、協働的關係を構築する手法を、理論的背景と実例を通じて学ぶ。</p> <p>その地域の深層を抽出する手法として、本授業では特に“ドキュメンタリー映像・映画”“観光映像”を教材として扱い、授業内において議論を重ねることによって、より深く観光地域を理解する。</p>							
【授業計画】							
<ol style="list-style-type: none"> 観光地エスノグラフィー：その理論的背景 エスノグラフィーの中では参与観察も行われる。これは研究対象となる社会の内部に入り込み、内部から研究調査を行う手法である。このような手法も含めて地域とコミュニケーションを取り、地域の潜在的な可能性を見出す方法を、実例を交えて解説する。 ドキュメンタリー映像、観光映像から読めること ドキュメンタリー映像、観光映像は地域社会を映像で描いたものであり、それらの映像にもエスノグラフィーの手法が用いられることもある。映像の分析とともに観光地域について考える。 地域住民の生活と観光について 観光地域の潜在的な観光資源として、住民の生活、生活の場が挙げられる。このような日常の場をどのように見出すのか、住民との交流によって見つける手法について学ぶ。 観光映像の真偽性 観光映像は、観光地域の観光資源を紹介する映像である。そしてそれは旅行者に届ける映像であり、住民が見る世界とは異なることがある。真偽性を議論し、住民と観光客の間のコミュニケーションについて議論する。 ドキュメンタリー性とは何か ドキュメンタリー映像は広告映像と違い、真実性を伴った映像と考えられる。しかし、広告映像にも観光映像にもドキュメンタリー性が含まれることもある。その意味と効果について論じる。 観光資源を顕在化すること 観光地を開発する際には、潜在的な観光資源をどのように見出すか、が大切なこととなる。しかし、潜在的なものを外に出すことは、住民の生活をおびやかすこともある。この関係について議論する。 観光資源の社会的価値を問う 観光地における資源は多くの場合は経済的価値へと展開される。しかし、住民のコミュニティにおいては社会的価値が重視されることが多い。この視点において観光資源がいかに社会的価値につながるか、を考える。 まとめ 1-7で学んだことを受講者で討論し、さらなる理解を進める。 							
【到達目標】							
<ul style="list-style-type: none"> エスノグラフィー、ドキュメンタリー性の理論背景を学習し、観光地域の潜在的な観光資源を見つける手法、その意味を理解している。 潜在的観光資源を顕在化するドキュメンタリー映画の手法について理解している。 これらの学習を身につけ、観光地域の潜在的な魅力の抽出方法やその価値について議論することができる。 							
【テキスト】							
授業内で資料を配布する。							
【成績評価】							
授業における学習状況・発言状況（50%）とレポート（50%）によって総合的に評価する。							

授業科目名	会計学						
対象学生	1年	開講期間	3Q	単位数	1	授業形態	講義
担当教員	八島 雄士						
【授業の概要】							
<p>この授業の目的は、ファイナンシャルマネジメントを学ぶ前提となる会計の基礎知識を身につけることである。</p> <p>観光・地域づくりでは、個々の地域ごとに特性が異なるため、歴史・文化・自然など地域に固有のコミュニケーション言語を理解することが求められる。一方、事業運営においては、継続的に事業を実施するための戦略的な計画と実施を進めるためのコミュニケーション言語として会計や財務に関わる知識や理解を深めることが求められる。</p> <p>そこで、この授業では、第一に、決算書を理解するための財務会計と事業運営のための管理会計の違いを学ぶ。第二に、事業計画を戦略的に立案する基礎となる会社の収益性、安全性、将来性に関する理解を深める。第三に、実際に利益計画策定に必要な知識の基礎として管理会計や原価計算の基礎を学ぶ。第四に、実践的な会計方法であるアメルバ経営の基礎となる採算計算について学ぶ。</p> <p>また、実際の授業は、座学のみならず、ワークショップ形式を含めたアクティブラーニングとして進める。具体的には、エクセルを利用した作表作業を行う。また、会計の知識を深め、実践への意識づけのために、ケーススタディを含むディスカッションを行う。</p>							
【授業計画】							
<ol style="list-style-type: none"> 2つの会計と収益性（損益計算書）を理解する <ol style="list-style-type: none"> ①財務会計と管理会計の違い、②財務三表の役割、③損益計算書と収益性の関係 会社の安全性（貸借対照表）を理解する <ol style="list-style-type: none"> ①貸借対照表（資産、負債、資本）の知識、②貸借対照表と安全性の関係 会社の将来性（キャッシュフロー計算書）を理解する <ol style="list-style-type: none"> ①キャッシュフロー計算書の知識、②キャッシュフロー計算書と成長性の関係 管理会計を使った会社の見方を理解する <ol style="list-style-type: none"> ①管理会計の考え方、②固定費と変動費の分類とその使い方、③管理会計と価値創出の関係 実践的会計思考と議論 1 <ol style="list-style-type: none"> ①経営哲学と会計思考、②会計知識を基盤とする組織づくり 実践的会計思考と議論 2 <ol style="list-style-type: none"> ①時間当り採算の考え方、②時間当り採算表、③基盤となる会計原則 実践的会計思考と議論 3 <ol style="list-style-type: none"> ①収入のとらえ方、②経費のとらえ方、③時間のとらえ方 まとめ <ol style="list-style-type: none"> ①自立して実践する、②成長をめざす、③人を育てる 							
【到達目標】							
<ul style="list-style-type: none"> ・観光・地域づくりにおける法人の持続的な運営に資する会計知識への理解を深めること ・ファイナンシャルマネジメントを学ぶための基礎知識を理解すること ・会計知識を基盤とする運営を行うための意識を高めること 							
【テキスト】							
<p>日本経済新聞社[編] (2019) . 『財務諸表の見方<第13版>』日経文庫 稲盛和夫 (2010) . 『アメルバ経営』日経ビジネス人文庫</p>							
【成績評価】							
<p>毎回のワークの提出状況および評価結果60%、まとめのレポート40%の割合で総合的に評価する。</p>							

授業科目名	経営理念						
対象学生	1年	開講期間	3Q	単位数	1	授業形態	講義
担当教員	出口 竜也						
【授業の概要】 経営理念とは経営者の経営目的、信念、行動指針などを明文化し、その企業が果たすべき使命や、基本姿勢などを社内外に向けて表明したものである。企業の進むべき将来像を示す羅針盤的な役割を果たし、対内的には、構成員の行動規範、価値判断や自己評価の基準となるものであり、対外的には他企業との違いを示すアイデンティティの基盤となるものでもあり、通常は長期にわたって持続的に受け継がれるものである。 本授業科目では、この経営理念の果たす役割を多面的にとらえるとともに、地域の総合産業としての観光産業と経営理念の関係や、さまざまな業種のさまざまな企業が連携して形成される観光地において各企業が保有する経営理念を相互に理解することの重要性について解説していく。							
【授業計画】 1. はじめに 経営理念とは（1） 経営理念とは何か、経営理念が果たす役割 2. 経営理念とは（2） 経営理念を研究する意味、意義、方法 3. 経営理念と組織文化 経営理念と組織文化の関係 4. 経営理念と経営戦略 経営理念が経営戦略の策定・実行に与える影響 5. 経営理念と経営倫理 経営理念と経営倫理の関係 6. 経営理念と観光（1） 観光産業において求められる経営理念とは 7. 経営理念と観光（2） 観光地における経営理念の設定の必要性 8. まとめ なぜ、観光において経営理念が重要なのか							
【到達目標】 企業経営において経営理念が果たす役割の本質と重要性について理解を深めるとともに、多様な産業の集合体としての地域の観光産業が個々の企業の経営理念を相互に理解し、めざすべき方向性をすり合わせていくための方法論を学ぶ。							
【テキスト】 特になし							
【成績評価】 平常評価（意見の表明による授業への貢献、リアクションペーパーの提出等） 40% 最終レポート課題 60%							

授業科目名		地域と文化のストーリー					
対象学生	1年	開講期間	3Q	単位数	1	授業形態	講義
担当教員	橋本 唯子						
<p>【授業の概要】</p> <p>地域の中にある文化資源を抽出し、地域のストーリーとして語り伝えるためには、たとえば住民が顕在的・潜在的に持ち続けてきた文化的素養を見出す教養の力が必要である。このような地域固有のストーリーに裏付けられた観光資源は、その地域を訪れる人びとにも新たな発見を促すものとして有効である。一方で、全国的に進む地域間格差、過疎化および高齢化にかかわる諸課題は、地域に疲弊と閉塞感をもたらすだけでなく、地域が持ち続けてきた文化の伝承を困難にしており、この傾向は今後も進んでいくことが予測される。本授業では、これらの点について、和歌山圏域に伝わる各地の埋もれつつあるストーリーの事例を示すことで、新たな地域と観光のストーリーを抽出し、創り出すための基盤となる考え方を修得する。</p> <p>授業は講義形式とゼミナール形式で行い、講義で事前に出された課題について発表を行い、それらをもとに議論をする。</p>							
<p>【授業計画】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 地域と観光資源とは はじめに・講義概要・進め方 地域が抱える課題 和歌山の現況 2. 地域にある観光資源の抽出 各地のストーリー検討 和歌山の事例 3. ディスカッション1 1. 2. および事前課題に基づく論議 4. 地域にある観光資源の活用 各地のストーリー検討 全国の事例 5. ディスカッション2 4. および事前課題に基づく論議 6. 現状と課題の整理 各地のストーリーと観光資源の持続可能性を問う 7. ディスカッション3 6. および事前課題に基づく論議 8. フィードバックおよび総括 地域と文化のストーリーを語り伝えるために 							
<p>【到達目標】</p> <p>地域にある社会的課題を把握しながら文化資源を抽出し、新たなストーリーとして創造する力を養う。またそのストーリーに裏付けられた観光資源を活用する方法について、課題やディスカッションを通じて具体的な内容を検討することができるようにする。自ら問題意識を持ち、解決策を実践することができるようにする。</p>							
<p>【テキスト】</p> <p>特に指定しない。</p>							
<p>【成績評価】</p> <p>授業内で課す課題への対応状況50%、ディスカッションへの参加状況およびその評価結果50%をもって総合的に評価する。</p>							

授業科目名	地域と自然のストーリー						
対象学生	1年	開講期間	4Q	単位数	1	授業形態	講義
担当教員	尾久土 正己・大浦 由美・中島 敦司						
【授業の概要】							
<p>地域にある自然・環境は、代表的な観光資源として用いられることが多い。自然は私達に恩恵を与えてくれる一方で災害も与える。また、自然は私達人類の経済活動に対して脆弱である。このような状況で私たちは自然と共生していく姿勢を理解することが求められる。本授業では、このような自然と人類との関係、その共生の姿勢について和歌山の海・山・空の自然を例に学び、その共生から生まれてきた文化資源についての理解を通じて「地域と自然のストーリー」を創造するための基盤となる考え方を修得する。</p> <p>授業は講義形式とゼミナール形式で行い、毎回の講義で事前に出された課題について発表を行い、それらをもとに議論をする。</p>							
【授業計画】							
<p>1. ガイダンス：この授業で理解する自然とは（尾久土正己・大浦由美・中島敦司） ここで扱う自然は、人類と共生することで形作られる文化的ストーリーを持つものであることと定義し、その脆弱さと持続可能性の難しさを理解する。</p> <p>2. 海のストーリー、和歌山を事例に（中島敦司） 和歌山や紀伊半島の「海」は、山地から海へとつながる自然、特に温暖で多雨な気候が作り上げた森林から海岸につながる森林～農地～沿岸自然の美しい景観と多様な生物多様性が作り出していることを紹介し、海の新たなストーリーを紡ぐための基礎知識を与える。</p> <p>3. 海のストーリーについての発表と議論（中島敦司） 前回の講義内容を活用し、海の価値の再発見に繋がるストーリーを考案し、プレゼンテーションする。</p> <p>4. 山のストーリー、和歌山を事例に（大浦由美） 和歌山は古来より「木の国」とも称されてきたように、豊富な森林資源に恵まれている。この講義では、当地の林業や紀州備長炭生産などの林産物利用の歴史や文化を紹介し、これらの現代的な価値をストーリーとして紡ぐための基礎知識を与える。</p> <p>5. 山のストーリーについての発表と議論（大浦由美） 前回の講義内容を活用し、山（森）の価値の再発見に繋がるストーリーを考案し、プレゼンテーションする。</p> <p>6. 空のストーリー、和歌山を事例に（尾久土正己） 和歌山には中世の精神的な宇宙（高野・熊野）、平成の公開天文台建設による星空観光、令和のロケット射場による宇宙観光と宇宙関係の資源が多数ある。これらを紹介することで空のストーリー創りのヒントを与える。</p> <p>7. 空のストーリーについての発表と議論（尾久土正己） 前回の講義内容を活用し、空の価値の再発見に繋がるストーリーを考案し、プレゼンテーションする。</p> <p>8. 自然と人類の共生（尾久土正己・大浦由美・中島敦司） 学生が紡いだストーリーから、それぞれの海・山・空の間をつなぐストーリーを見出し、それらを周遊できる観光資源に活用するために必要なハード・ソフトについて議論する。</p>							
【到達目標】							
<p>地域固有の景観が生まれてきた背景には自然との共生があることを理解し、それらをストーリーとして紡ぐことで地域が潜在的に有する観光資源を具現化する力を修得する。また、自然の脅威と脆弱さを理解し、長期にわたってリスク管理と環境保護をすることで持続可能な地域の観光資源とする必要性も同時に理解する。</p>							
【テキスト】							
授業内で資料を配布する。							
【成績評価】							
<p>海・山・空の3回の発表における具体的なストーリーについてのプレゼンテーション内容（50%）と最終レポートとして、和歌山地域をテーマにした新しいストーリーについてのレポート（50%）によって総合的に評価する。</p>							

授業科目名	ファイナンシャルマネジメント						
対象学生	1年	開講期間	4Q	単位数	1	授業形態	講義
担当教員	森重 良太						
【授業の概要】 観光産業は労働生産性や付加価値が低い産業の1つと言われているが、その大きな理由の1つとしてファイナンシャルマネジメントの実践が不足していることが挙げられる。観光産業といっても業種や規模によって儲け方や稼ぎ方は様々である。儲けの源泉は何なのか、持続的に稼ぐためには何が必要なのか、そのビジネスモデルを数字で説明できないと、どんなに立派な戦略やマーケティングも会社の業績にどのように直結しているかを正確に捉えることは困難である。 本講義では観光産業の再生や成長に最前線で関わってきた担当教員が、理論ではなく実践として使えるファイナンシャルマネジメントのコアスキルの体得を目指して、事業と財務を連動させたPL・BS・CFの本質と、それらを連動させてビジネスモデルを数字で見える化した財務モデリングを自在に操ることを目指す。							
【授業計画】 1. 損益計算書 事業の儲け方を数字で捉えるBS表について 2. 貸借対照表 資金の調達と運用を把握するPL表について 3. キャッシュフロー計算書 経営の成否を左右するCF表について 4. 財務三表と経営分析 財務三表 (PL・BS・CF) の連動モデルと経営分析 5. 個別原価計算と管理会計 個別事業の損益を見抜く個別原価計算と管理会計 6. バリュエーション分析 事業投資 (M&Aや事業承継) で失敗しないバリュエーション 7. ケーススタディA 宿泊業・交通業の財務モデリング 8. ケーススタディB 飲食業・物販業の財務モデリング							
【到達目標】 <ul style="list-style-type: none"> 観光産業における事業の儲け方・稼ぎ方を数字で説明できる。 事業内容と連動した実践で使える財務モデルを作成・分析できる。 資金調達からM&A・事業承継で失敗しない企業価値の算定ができる。 							
【テキスト】 指定しない							
【成績評価】 <ul style="list-style-type: none"> 中間評価 レポート 40% (財務諸表の基礎について) 最終評価 レポート 60% (財務モデリングを実践方法について) 							

授業科目名	観光地における危機管理						
対象学生	1年	開講期間	4Q	単位数	1	授業形態	講義
担当教員	此松 昌彦・小河 健一						
【授業の概要】 日本は変動帯であることから地震・火山による災害、また地球温暖化による集中豪雨による洪水・土砂災害などの自然災害が頻発している。さらに最近では世界規模の感染症により、これらはまとめて「危機」と言われ、それらに対応することが「危機管理」となる。特に自然災害の影響を受けている場所が、温泉や火山をはじめとした複雑な地形につながり、素晴らしい景観を醸して持続可能な観光地になっている場合が多い。これらのリスクに備えて、地元の地域資源を磨きあげながら、他にない特色ある観光地へしていく必要がある。そこで本授業では、様々な観光地での事例をもとに考え、今後予想されるリスクに対応できる汎用的な考え方を修得する。 具体的には前半で自然災害としての危機管理について考え、地震災害、風水害、火山災害について、発生メカニズムから災害について、観光地での災害事例やその対応について考察する。さらに災害後の風評被害で観光客が激減することもあり、それへの対策についても考える。 後半では、観光と感染症として①感染症について総論的な知識を身につけ、②国内外旅行における一般的な感染症とその対策、③海外旅行における世界の特定の地域で流行している感染症、④過去に流行した感染症について学び、新たな感染症が出現した場合どのようなことをすればよいかを考えることのできる知識を身につける。 最後には観光地にとって必要な危機管理についてまとめて理解する。							
【授業計画】 1. はじめに(此松) 観光地における危機と災害の特徴について 2. 観光地での自然災害と対策①(此松) 地震災害と対策について 3. 観光地での自然災害と対策②(此松) 風水害と対策について 4. 観光地での自然災害と対策③(此松) 火山災害と対策について 5. 災害に強い観光地を目指すには(此松) 災害後の風評被害の対策について 6. 観光と感染症①(小河) 感染症にかからないための対策と準備 7. 観光と感染症②(小河) 感染症の温故知新、過去の事例に学ぶ 8. まとめ(此松) 観光地にとって必要な危機管理							
【到達目標】 <ul style="list-style-type: none"> 観光業者にとって、地域には多様な危機があり、その危機管理のうえでツアーが成り立っていることを知り、旅行者を安全な環境に保ちながら、事故のないように危険を予測できる能力を身につけることができる。 観光と感染症：感染症について知識を深め、安心・安全な旅行が計画できる能力を身につける。新たな感染症が発生した場合、すぐに対応できる能力を身につける。 							
【テキスト】 観光と感染症、自然災害：必要に応じて資料を配付します。 参考書として『「復興のエンジン」としての観光―「自然災害に強い観光地」とは』創成社 ISBN:978-4-7944-3214-8							
【成績評価】 各回の発言・課題への対応状況等(30%)および各教員が課す最終レポート(此松50%、小河20%)をもとに総合的に評価する。							

授業科目名	経営戦略						
対象学生	1年	開講期間	4Q	単位数	1	授業形態	講義
担当教員	竹林 浩志						
<p>【授業の概要】</p> <p>近年、地域・社会における様々な問題は経済的な問題に起因するとみられる傾向が強く、それらの解決を図るには、短期的な思考ではなく、長期的な視点に立った戦略的な思考が必要だと考えられている。そのためには、地域外の組織を含めた全体的な競争的環境の中で長期的・継続的に価値を作り出す仕組みをいかにデザインし、それをいかに維持するかが重要であると考えられる。</p> <p>それゆえ、地域で観光を手段として活用する際には、観光産業の全体の構造、およびその環境条件を把握したうえで、地域としての全体的な方向性を設定し、地域における様々な個別企業の活動をその方向性に向けて連動させて活動する必要がある。</p> <p>そこで、この講義では、その際に必要と考えられる経営戦略的思考方を解説するとともに、地域で選択可能な活動のあり方を考えてもらう。</p>							
<p>【授業計画】</p> <ol style="list-style-type: none"> はじめに ～地域産業における観光の位置づけ～ 観光産業の特徴 日本の経済発展と観光産業 外部環境分析（1） C-PEST分析 ―政治・経済・社会・技術的環境― 外部環境分析（2） C-PEST分析 ―競争的環境― 内部構造分析（1） 価値連鎖分析、有効性分析 内部構造分析（2） 製品ライフサイクル分析 内部構造分析（3） 産業連関分析 まとめ ～地域産業における観光のあり方～ 							
<p>【到達目標】</p> <p>近年、地域経済を活性化する際に用いられる観光の重要性を理解し、観光産業の特徴および地域を取り巻く様々な環境諸条件を把握した上で内部構造を考察することで、地域で観光を用いる際の戦略的思考の重要性を理解してもらう。</p>							
<p>【テキスト】</p> <p>特になし</p>							
<p>【成績評価】</p> <p>平常評価（各回のリアクションペーパー、および、講義時における発言状況） 40% 最終レポート課題 60%</p>							

授業科目名		ヴァーチャル観光					
対象学生	2年	開講期間	1Q	単位数	1	授業形態	講義
担当教員	尾久土 正己						
【授業の概要】							
<p>観光行動においては、文字などの記号を通して認識する情報だけでなく、五感などの感覚を通して認識する情報（感覚知）が大きなウェイトを占めている。そのため、実際に現地へ移動（旅行）し、感じる事が重要視されてきた。しかし映像技術の発展により、様々なメディアを通じて観光地の映像が提供されるようになり、居住地にいながらにして観光の一部の体験ができるようになってきた。さらに、近年のヴァーチャルリアリティ（仮想現実）の技術が急速に発展する中で、まるでそこにいるかのような高い臨場感が実現できるようになってきている。</p> <p>昨今の感染症などの様々なリスクを前に、観光においてもニューノーマルへの転換が期待されているが、ヴァーチャルリアリティを使った移動（旅行）を伴わない観光はその1つとして期待されている。本講義では、人間工学、感性工学の視点から人間の感覚知についての基礎を学修し、最先端のヴァーチャル観光の実験装置であるドームシアターや関連機器を使って、その具体的な事例と技法を学修するとともに、ヴァーチャル観光を通して、観光の本質である「人は何を求めて旅に出るのか」について議論を深める。</p> <p>授業は講義形式とゼミナール形式で行い、講義で事前に出された課題について発表を行い、それらをもとに議論をする。</p>							
【授業計画】							
<ol style="list-style-type: none"> 人間工学からみた感覚知 人間の感覚知は視覚などの入力から始まる。この回では人間の五感の能力について人間工学の視点から学ぶ。 人間工学からみた感覚知についての発表と議論 前回学修した知見をもとに、観光に応用した場合、どのような展開ができるか議論する。 感性工学からみた感覚知 観光では感性が重要視される一方で感性は評価が難しい。感性工学の手法を用いることで評価ができることを学ぶ。 感性工学からみた感覚知についての発表と議論 前回学修した知見をもとに、観光に応用した場合、どのような展開ができるか議論する。 ヴァーチャルリアリティの技法（1） 大学内のVR施設（ドームシアター等）を見学し、映像制作のための撮影機器の操作を学ぶ。 ヴァーチャルリアリティの技法（2） 撮影したVR映像をフリーのDaVinci resolve等の編集ソフトで加工する手法を学び、1分程度のVR映像の制作を課題にする。 制作したヴァーチャル映像についての発表と議論 各自が制作したVR映像をもとに議論し、実際の観光での活用例を議論する。 ヴァーチャル観光の可能性と限界について議論 リアルな観光を補完するVR映像だけでなく、メタバースなどのVRで完結する映像を使った観光の可能性も含めて議論することで、観光の本質である「人は何を求めて旅に出るのか」を考える。 							
【到達目標】							
<p>ヴァーチャル観光の可能性と限界を理解し、実際の観光地を事例にしたヴァーチャル観光のコンテンツを制作するための最低限の技法を修得することで、地域の価値を新しい形で具現化する能力を身につける。</p>							
【テキスト】							
<p>特になし。参考書・マニュアルは必要に応じて紹介する。</p>							
【成績評価】							
<p>授業内での発表と議論への参加状況（30%）とコンテンツ制作（20%）と最終レポート（50%）によって総合的に評価する。</p>							

授業科目名	ビジネスモデル						
対象学生	2年	開講期間	1Q	単位数	1	授業形態	講義
担当教員	出口 竜也						
【授業の概要】							
<p>ビジネスモデルとは、利益を生み出す製品やサービスを生み出す事業戦略と収益構造を示す用語であり、1990年代における情報技術の発展にともなって急速に普及し、理論的にも実証的にも多くの研究成果が蓄積されている。この授業では、マネジメントの基礎となるビジネスモデルの構造と実態について解説するとともに、外部環境との相互作用から生まれるイノベーションの意義や、競合他社に簡単に模倣されないようなビジネスの設計思想について検討する。具体的には、①誰に向けて、どのような価値を提供するのか、②その価値をどのように提供するのか、③提供するにあたって必要な経営資源をどのような誘因を提供して集めるのか、④提供した価値に対してどのような収益モデルを構築して対価を得るか、について解説する。また、この授業はビジネスモデルのさまざまなアプローチに対する理解を深めるためにケーススタディを活用したディスカッションを行うとともに、ワークショップ形式で自身が取り組もうとしている事業もしくは優れたビジネスモデルを持つ企業を取り上げて意見交換を行い、最後に受講生一人一人がプレゼンテーションを行う。</p>							
【授業計画】							
<ol style="list-style-type: none"> 1. ビジネスモデルとは何か ビジネスモデルとは何かに関する解説 2. ビジネスモデルのつくり方 ビジネスモデルを作るために踏むべきステップに関する解説 3. ビジネスモデルのアプローチ（1） ～戦略分析アプローチ～ ビジネスモデルの第1のアプローチである戦略分析アプローチの解説 ファクトとデータを重視し、グラフと数値で示す 4. ビジネスモデルのアプローチ（2） ～顧客洞察アプローチ～ ビジネスモデルの第2のアプローチである顧客洞察アプローチの解説 洞察とストーリーを重視し、言葉とイメージで表す 5. ビジネスモデルのアプローチ（3） ～パターン適合アプローチ～ ビジネスモデルの第3のアプローチであるパターン適合アプローチの解説 関係と構造を重視し、ヒストグラムと矢印で示す 6. アイデアの発想とビジネスモデルづくり（1） 各自によるアイデア出しとビジネスモデルの試作 ～ワークショップ形式～ 7. アイデアの発想とビジネスモデルづくり（2） 各自によるアイデア出しとビジネスモデルの試作 ～ワークショップ形式～ 8. 最終報告会 							
【到達目標】							
<p>ビジネスモデルとは何かについて基礎から理解し、戦略的分析、観察やインタビュー、アナロジー、逆転の発想など、さまざまな観点からビジネスモデルを構想できるようになるとともに、自身が取り組もうとする事業を構想するにあたってより適切なフレームワークを使い分けられるようになる。</p>							
【テキスト】							
<p>井上達彦『ゼロからつくるビジネスモデル』東洋経済新報社 井上達彦『ビジネスモデルがわかる』日本経済新聞出版 川上昌直『マネタイズ戦略』ダイヤモンド社</p>							
【成績評価】							
<p>平常評価（意見交換等による授業への貢献、リアクションペーパーの提出等） 40% 最終レポート課題 60%</p>							

授業科目名	人的資源管理						
対象学生	2年	開講期間	1Q	単位数	1	授業形態	講義
担当教員	厨子 直之						
<p>【授業の概要】</p> <p>今後、観光産業の国際競争力を持続的に高めていくには、特色ある観光サービスを創出することができるプロフェッショナル人材が必要となる。その際、多様な専門職の知を集結して地域に新たな価値を生み出していくこととなるが、専門職のマネジメントは非常に困難であることが特徴的である。しかし逆に言えば、困難であるからこそ、人材のマネジメントが優れている観光サービス組織は他組織が真似をできない競争優位を確立することとなる。</p> <p>この講義では、人的資源管理論の基本的知識を習得するとともに、受講生の皆さんが職場等で抱えておられるヒトのマネジメントに関する課題を特定化し、その解決策について、データ収集・分析を通じて科学的に提案できるようになることを目的とする。</p>							
<p>【授業計画】</p> <ol style="list-style-type: none"> はじめに 人的資源管理論の全体像、実践的問題解決のための定量的分析手法の基礎知識 人的資源管理の基礎理論（1） 採用、人材育成に関するグループ発表 人的資源管理の基礎理論（2） 人事評価、報酬管理に関するグループ発表 所属組織における実践的課題の解決に向けて（1） 分析モデルと仮説の設定 所属組織における実践的課題の解決に向けて（2） 質問票の作成 所属組織における実践的課題の解決に向けて（3） データ入力・分析① 所属組織における実践的課題の解決に向けて（4） データ分析② まとめ 分析結果の発表と講評 							
<p>【到達目標】</p> <p>この講義では、①人的資源管理論に関する理論的バックボーンを習得する、②定量的な分析ができる、③実践的課題と解決策に関する理論的・実践的な提案ができることを目指す。</p>							
<p>【テキスト】</p> <p>特になし。</p>							
<p>【成績評価】</p> <p>平常評価（意見の表明による授業への貢献、リアクションペーパーの提出等） 70% 最終レポート課題 30%</p>							

授業科目名	観光地マーケティング						
対象学生	1年	開講期間	1・2Q	単位数	2	授業形態	講義
担当教員	佐々木 壮太郎 ・ 北村 元成						
【授業の概要】							
<p>現代の観光地域のマネジメントにおいて、顧客志向にもとづくマーケティング活動と、それを基礎とした地域のブランディングは必須のものとなっている。この授業の前半では、地域が有する資源をもととして、ターゲットとなる顧客セグメントを選択し、顕在的ないし潜在的ニーズに対し的確に対応するために必要となるマーケティングの概念や知識を学ぶ。顧客志向の出発点となるマーケティングコンセプトから、観光地域や観光産業への応用に至るまで、ケース等を交えながら理解を深めていく。</p> <p>授業の後半では、観光地域において喫緊の課題となるブランディングを取りあげる。最初にブランドが果たす役割とブランド価値の構造を理解し、強いブランドを築き上げるための手法や地域における事例の紹介などを通して、効果的なブランディングについての知識・能力を身につけていく。</p>							
【授業計画】							
<ol style="list-style-type: none"> 1. マーケティングとマーケティングコンセプト (佐々木) マーケティングの基本発想である顧客志向について 2. 環境分析と市場機会の発見 (佐々木) 内部資源と外部環境をどのようにして把握するか 3. セグメンテーション、ターゲティング、ポジショニング (佐々木) マーケティング戦略策定の出発点を理解する 4. マーケティングミックス (1) (佐々木) 製品政策と価格政策について 5. マーケティングミックス (2) (佐々木) チャネル政策について 6. マーケティングミックス (3) (佐々木) プロモーション政策について 7. サービスマーケティングと顧客関係管理 (佐々木) 有形財と無形財は何が異なるのか 8. デステーションマーケティング (佐々木) 観光地域にマーケティングを適用するためには 9. ブランドとブランド価値 (佐々木) ブランドエクイティ概念の基礎について 10. ブランドレゾナンスモデル (佐々木) ブランド価値構築の各段階について 11. ブランドマーケティングプログラムの立案と実行 (佐々木) ブランド価値構築におけるマーケティング活動のあり方 12. 地域のブランディング (1) (北村) 事例をもとに地域のブランディングを考える 13. 地域のブランディング (2) (北村) 事例をもとに地域のブランディングを考える 14. 地域のブランディング (3) (北村) 事例をもとに地域のブランディングを考える 15. まとめ (佐々木・北村) 							
【到達目標】							
<ul style="list-style-type: none"> ・マーケティングおよびブランディングについて核となる概念や知識の理解を深める。 ・マーケティングおよびブランディングの概念や知識を、観光地域に適用するための考察を行なうことができる。 ・授業で学んだ概念や知識をもとに実際の事例等の分析を行ない、適切な方法で表現することができる。 							
【テキスト】							
<p>①グロービス経営大学院 (編) 『グロービスMBAマーケティング 改訂4版』ダイヤモンド社、2019年。</p> <p>②K・L・ケラー (恩藏直人監訳) 『エッセンシャル戦略的ブランド・マネジメント 第4版』東急エージェンシー、2015年。</p> <p>その他、参考書・参考資料等については必要に応じて適宜紹介する。</p>							
【成績評価】							
<p>授業の準備状況・発言・課題等 (60%) および最終レポート (40%) をもって総合的に評価する。</p>							

授業科目名	観光地ビジュアルデザイン						
対象学生	1年	開講期間	1・2Q	単位数	2	授業形態	講義
担当教員	北村 元成						
【授業の概要】 観光における様々なシーンにデザインは深く関わっている。観光商品を訴求するためにも、観光資源の体験を円滑にするためにも、地域アイデンティティを明確化しブランド力を向上させるためにも、 観光地 はあらゆるビジュアルを意図的整合性をもって効果的にデザインし、観光客とのビジュアルコミュニケーションを最適化する必要がある。 この授業では 観光地 の視覚的なデザインの現状に見られる様々な現象と課題について具体的な事例をもとに学び、 観光地 の問題解決に対するデザイン的なアプローチについて考察する。							
【授業計画】 1. はじめに 授業の進め方と観光とビジュアルデザインの関係について概説する 2. 広告・広報のビジュアルデザイン (1) 広告・広報誌1 広告・広報誌による観光・地域情報発信 3. 広告・広報のビジュアルデザイン (2) 広告・広報誌2 観光及び地域情報のビジュアルコミュニケーション 4. 広告・広報のビジュアルデザイン (3) 広告・広報誌3 広告・広報誌に関する調査報告とディスカッション 5. 広告・広報のビジュアルデザイン (4) ホームページ1 ホームページによる観光・地域情報発信 6. 広告・広報のビジュアルデザイン (5) ホームページ2 SNSによる観光・地域情報発信 7. 広告・広報のビジュアルデザイン (6) ホームページ3 インターネットに関する調査報告とディスカッション 8. お土産物のビジュアルデザイン (1) お土産物の現状と課題 9. お土産物のビジュアルデザイン (2) 地域ブランドとしてのお土産物 10. お土産物のビジュアルデザイン (3) お土産物に関する調査報告とディスカッション 11. 観光地のサインデザイン (1) 観光サインの現状と課題 12. 観光地のサインデザイン (2) 観光サインの役割 13. 観光地のサインデザイン (3) 観光サインの実践 14. 観光地のサインデザイン (4) 観光サインに関する調査報告とディスカッション 15. まとめ 観光におけるビジュアルデザインの今後と展望							
【到達目標】 観光地 を視覚的により良い環境にマネジメントし、観光客とのビジュアルコミュニケーションを快適で効果的なものにするデザイン的なアプローチについて理解を深め、 観光地 の社会的価値を創造し具体化するためのデザイン的な視点を身につける。							
【テキスト】 特になし							
【成績評価】 レポート 提出 を持って課題点とし、授業への参加状況（発言等）との総合評価で採点します（課題点：70%、参加状況30%程度）。各レポートで課されたテーマに対する調査方法や内容の妥当性、課題発見能力、テーマに関する理解の深度、報告資料の作成と発表能力を総合的に評価します。							

授業科目名	地域映像プロデュース						
対象学生	1年	開講期間	3・4Q	単位数	2	授業形態	講義
担当教員	木川 剛志						
【授業の概要】							
地域の魅力を伝える映像、移住促進を伝える映像など、観光地域におけるプロモーションには映像は大きな広告ツールとなっている。本演習では観光地域におけるプロモーション映像を制作するための、企画の立て方、仕様書の作成、納品後のデジタルマーケティングの手法について学ぶ。そのために、実際に観光映像を制作する。							
【授業計画】							
<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 観光映像や地域プロモーション映像の概要について学ぶ。 2. 観光プロモーションの流れについて 発注者から制作者、その後のマーケティングの工程について学ぶ。 3. 企画書の書き方 映像製作にはターゲット、ゴールの設定が必要である。企画書の書き方を学ぶ。 4. 映像制作の仕様書 観光映像の尺やデジタルマーケティングなどの仕様の概念について学ぶ。 5. ターゲットとデジタルマーケティング ターゲットをどのように設定し、映像を届けるか、の手法を学ぶ。 6. 映像制作1：企画書 ここまで学んだことを踏まえて、企画書を書く。 7. 映像制作2：ストーリーボード 効果的な映像製作のための物語を考える。 8. 映像撮影技術1：カメラの使い方 カメラの特性と、得られる効果について学ぶ。 9. 映像撮影技術2：撮影技法 撮影技法を学び、その特徴を学ぶ。 10. 映像制作3：人の撮影 人物撮影を行い、その工夫すべき点を学ぶ。 11. 映像制作4：風景の撮影 風景撮影を行い、その工夫すべき点を学ぶ。 12. 映像制作5：編集 編集を実際に行い、その工夫すべき点を学ぶ。 13. 映像制作6：オーサリング 納品すべきデータの扱いについて学ぶ。 14. プレゼンテーションと講評会 制作した映像を講評する。 15. まとめ 実際の観光映像を見ながら、その背景について討論する。 							
【到達目標】							
観光地域で効果的な映像制作を依頼することができるプロデューサーとして必要な知識を身につけている。映像制作を体験し、それぞれの工程でどのような打ち合わせが必要かを理解している。							
【テキスト】							
授業内で必要な資料を配布する。							
【成績評価】							
授業における学習状況・発言状況（50％）と、最終成果物・プレゼンテーション内容（50％）によって判断する。							

授業科目名		観光ツアープランニング					
対象学生	1年	開講期間	3・4Q	単位数	2	授業形態	講義
担当教員	木村 ともえ						
【授業の概要】							
<p>ツアーとは、観光地を物見遊山で消費するのではなく、地域資源を維持・継続するための手段である。「観光地プロデュース」の内容を下敷きとしながら、観光業界・旅行業界の理解を深め、「売り手」と「作り手」の立場と役割を理解したツアープランニングを習得する。</p> <p>ツアープランニングで理解しなければならない、地域資源の活用や、地域住民や行政等様々な地域主体の協働の中で、それを具体化していくプロセスを幾つかの事例を通して学び、「地方創生」としての地域ツアープランニングを考察する。本講義では、新規のツアーを創出することだけを評価するのではなく、地域資源を維持・継続するために、既存のツアーの研究を通じて、リブランディングや磨き上げの視点も取り上げる。</p> <p>学修の過程では、課題を通じて受講生自らが具体的な課題解決策の探究ができるための指導やワークショップなど協働的に学ぶ場を提供していく。ツアープランニングの対象エリアは、学生自身が対象エリアとコンタクトを取り、地域資源の資料の取得や背景整理、ツアープランニングの評価をできるだけ当該エリアから受けるよう自主性を重んじた指導を行う。</p>							
【授業計画】							
<ol style="list-style-type: none"> 1. はじめに 本講の進め方、ツアーとは、ツアーと諸課題 2. 旅行会社とツアー 旅行商品企画とツアープランニング、企画と仕入れ活動 3. 旅行会社とツアー リアル販売、オンライン販売、そのほか 4. 観光地プロデュースとツアー（1）概要 観光地プロデュースにおけるツアープランニングの役割、プランニングの視点、ターゲティング 5. 観光地プロデュースとツアー（2）資源の活用 地域資源とツーリズム活用、地域資源の発掘 6. 観光地プロデュースとツアー（3）地域継続性 ツアーと地域体制、事例研究、課題①「ワークショップで検討したいツアーの抽出と分析（商品内容・資源・体制）」 7. 観光地プロデュースとツアー（4）商品化にむけて 商品化にむけた諸活動の理解、モニターツアーの実施、課題②「関心のある地域の抽出」 8. ワークショップ（1）ツアー研究 9. ワークショップ（2）ツアー研究 10. ワークショップ（3）ツアー研究 発表・講評 課題①の対象エリアでワークを3回にわたり実施。地域プロデュースの視点、地域体制や販売の視点、地域継続性や磨き上げの視点で整理する。 11. 地域ツアープランニング（1） 12. 地域ツアープランニング（2） 課題②の対象エリアで、ツアープランニング2回にわたり実施。 地域プロデュースの視点、地域継続性や磨き上げの視点、地域体制や販売の視点 13. プラン発表とディスカッション 14. プラン発表とディスカッション 15. まとめ 							
【到達目標】							
<ul style="list-style-type: none"> ・「地域プロデュース」におけるツアーの役割を理解し、地域資源の発掘と活用が行える ・地域におけるツアープランニングのプロセスを理解し、ツアー商品をプランニングできる ・プランニングした商品を、適切にプレゼンテーションできる 							
【テキスト】							
特に指定しない。授業内で資料を配付するほか、参考書等については必要に応じ指示する。							
【成績評価】							
授業の準備状況・議論での発言状況（50%）、課題およびプレゼンテーション内容（50%）をもって総合的に評価する。							

授業科目名	観光資源と地域コミュニティ						
対象学生	1年	開講期間	3・4Q	単位数	2	授業形態	講義
担当教員	大浦 由美						
【授業の概要】							
<p>従来から、観光は地域活性化の有効な手段として位置づけられてきた。近年、観光立国政策の下で、より積極的な観光振興政策が進められるなかで、グローバル化の進展による地域経済の衰退や少子高齢化に悩む地域においては、地域の様々な資源を「発見」し、観光資源として開発・活用して新たな価値創造に取り組んでいる。</p> <p>その一方で、観光は必ずしも地域に良い影響を与えるだけではない。2010年代後半に顕在化した「オーバーツーリズム」現象はその典型であり、とりわけ、生活空間の侵害やゴミ問題などの外部不経済の影響を被る生活者の地域コミュニティと深刻な対立を生じさせることがある。さらに、農村空間の景観などの主要な構成要素は、旧来的な地域コミュニティによる農林業等の営みによって形成されているが、近代化や大都市への人口集中によってコミュニティ自体も大きく変質しており、担い手の喪失により観光資源としての価値の維持管理が危ぶまれるケースもある。</p> <p>この科目では、地域資源を活用した地域観光の歴史的展開を概観し、持続可能な観光地域づくりの重要なステークホルダーである地域コミュニティと観光推進組織との協働的關係性構築に関わる理論とその実践を学ぶことを通じて、地域観光運営において必要な視座を修得する。</p>							
【授業計画】							
<ol style="list-style-type: none"> 1. 観光資源と地域コミュニティ (1) 資源一般と地域資源、地域資源としての観光資源の特徴 2. 観光資源と地域コミュニティ (2) 地域コミュニティの変容、観光と生活の近接と問題点 3. 観光資源と地域コミュニティ (3) 地域開発政策の変遷と観光開発① 4. 観光資源と地域コミュニティ (4) 地域開発政策の変遷と観光開発② 5. コモンズ論と観光地域マネジメント (1) 地域資源管理システムとしてのコモンズと現代的意義 6. コモンズ論と観光地域マネジメント (2) コモンズ論からみる観光地域マネジメント① 7. コモンズ論と観光地域マネジメント (3) コモンズ論からみる観光地域マネジメント② 8. 持続可能な観光地域づくりと地域コミュニティ (1) オルタナティブ・ツーリズムの潮流 9. 持続可能な観光地域づくりと地域コミュニティ (2) コミュニティ・ベースド・ツーリズムの概念と特徴 10. 持続可能な観光地域づくりと地域コミュニティ (3) 日本における内発型地域づくりの理論と実践① 11. 持続可能な観光地域づくりと地域コミュニティ (4) 日本における内発型地域づくりの理論と実践② 12. ケーススタディ (1) 自然資源を活用したツーリズムと地域コミュニティ 13. ケーススタディ (2) 人文資源を活用したツーリズムと地域コミュニティ 14. ケーススタディ (3) 生活空間ツーリズムと地域コミュニティ 15. まとめ 総合討論 							
【到達目標】							
<ul style="list-style-type: none"> ・地域資源としての観光資源の特性とともに、地域コミュニティの権利と役割を理解する。 ・地域コミュニティを取り巻く現状と課題を理解するとともに、ケーススタディを通じて観光地域マネジメントにおける地域コミュニティとの協働的關係性構築のあり方を構想する力を身につける。 							
【テキスト】							
特になし。参考書・マニュアルは必要に応じて紹介する。							
【成績評価】							
授業内での発表と議論への参画状況 (30%) と最終レポート (70%) によって総合的に評価する。							

授業科目名	リーダーシップとコミュニケーション						
対象学生	1年	開講期間	3・4Q	単位数	2	授業形態	講義
担当教員	竹林 浩志						
【授業の概要】							
<p>地域をマネジメントする際に必要と考えられる組織および組織行動の理論を解説するとともにリーダーシップの本質を学ぶ。</p> <p>近年、地域における観光運営を行う場合、多様な意思をもつ複数の組織が連動して活動しており、そこでは公式な組織構造的つながり（指示・命令）だけではなく、「考え方を共有する」といったような非公式な影響力が重視されることが多い。これは、地域を主体としてマネジメントを行う際には、そもそもは別の組織であるものたちが集まってコミュニケーションを図り、活動の方向性を共有することが必要であり、そこには一般的な企業で用いられる責任と権限のつながりだけではなく、リーダーシップといわれるような本質的な人間的つながりが必要だと考えられているからである。</p> <p>そこで、この講義では組織・組織行動の諸理論を概観し、人間間の影響力について解説する。</p>							
【授業計画】							
<ol style="list-style-type: none"> 1. はじめに <ul style="list-style-type: none"> 地域における組織とは 2. 組織とは（1） <ul style="list-style-type: none"> 協働体系と組織 3. 組織とは（2） <ul style="list-style-type: none"> 組織と管理 4. 組織とは（3） <ul style="list-style-type: none"> 権限と権威 5. 組織行動における意思決定（1） <ul style="list-style-type: none"> 意思決定における事実と価値 6. 組織行動における意思決定（2） <ul style="list-style-type: none"> 経営行動における合理性 7. 組織行動における意思決定（3） <ul style="list-style-type: none"> 経営過程と合理性 8. 組織行動における意思決定（4） <ul style="list-style-type: none"> 組織均衡 9. リーダーシップのとらえ方（1） <ul style="list-style-type: none"> 特性アプローチ、行動アプローチ 10. リーダーシップのとらえ方（2） <ul style="list-style-type: none"> コンティンジェンシー・アプローチ 11. リーダーシップのとらえ方（3） <ul style="list-style-type: none"> 変革型リーダーシップ 12. 組織行動とリーダーシップ（1） <ul style="list-style-type: none"> チームにおけるリーダーシップの目的 13. 組織行動とリーダーシップ（2） <ul style="list-style-type: none"> チームにおけるリーダーシップとはなにか 14. チームワーキングとリーダーシップ <ul style="list-style-type: none"> 個人間の影響力とはなにか 15. まとめ 							
【到達目標】							
<p>地域において複数の組織が連動し一定のコミュニケーションのもとで活動することの重要性が高まっていることを理解のもとに、個別の組織が活動することとの違いを理解する。また、人間間の影響力の重要性を解釈し、それを実践において活用できる能力を身につける。</p>							
【テキスト】							
特になし。							
【成績評価】							
<p>平常評価（各回のリアクションペーパー、および、講義時における発言状況） 40%</p> <p>最終レポート課題 60%</p>							

授業科目名	観光地域マネジメントの潮流						
対象学生	1年	開講期間	1・2Q	単位数	2	授業形態	講義
担当教員	松田 敏幸						
【授業の概要】							
<p>日本各地におけるこれまでの観光地域マネジメントの事例を俯瞰し、成功事例と失敗事例の分析を通じてマネジメントの手法とこれからのあり方を学ぶ。日本各地はこれまで多くの観光客を受け入れてきた。多くの人々が訪れる参詣地とそれに伴って土産物を販売する門前町。または温泉を中心に旅館が形成された温泉街。これらの観光地域の形成から、昭和の終わりの頃に盛んとなったリゾート開発、そして現在求められる観光まちづくりの考え方。これらの事例は国策に基づいた民間や地方行政の方針によって生まれたものも多く、このメカニズムを理解した上で、事例の背後にあるガバナンスの流れを読み解くことが必要となる。この授業では観光地域マネジメントの歴史を踏まえた上で、近代以降の成功事例と失敗事例を紹介しながら、観光地域マネジメントに必要な視点を学ぶ。また、現在の観光地域マネジメントに重要とされるデータ分析の導入として、それらを活用することが必要である根拠としてデータ分析を用いた成功事例とデータに依存し失敗した例などを示し、データと戦略の関係についても学ぶ。</p>							
【授業計画】							
<ol style="list-style-type: none"> 1. 観光地域マネジメントの概念 2. 観光地の成り立ちと観光地域マネジメントの歴史 3. 行政が進める観光地域マネジメント：国と地方の関係 4. 民間主導の観光地域マネジメント：行政との関係 5. 観光地域マネジメントにおける計画の実例 6. 観光地域マネジメントの手法（1）：経験値活用の理論と実際 7. 観光地域マネジメントの手法（2）：EBPM・データ分析活用の理論 8. 観光地域マネジメントの手法（3）：EBPM・データ分析活用の実際 9. 観光地域マネジメントの視点（1）：時間軸による分類（長期・短期） 10. 観光地域マネジメントの視点（2）：エリアによる分類（単独・広域） 11. グループワーク：事例分析による成功と失敗：手法によるもの 12. グループワーク：事例分析による成功と失敗：視点によるもの 13. 和歌山圏域における観光地域マネジメントの事例 14. 他の地域における観光地域マネジメントの事例 15. 発表：観光地域マネジメントの成功・失敗とその原因・対応 							
【到達目標】							
<p>観光地域マネジメントには、制度的仕組・具体的な表現方法・手法や視点などの実際の事例を踏まえ、そのマネジメントを俯瞰して検証する能力と、データ分析の概要を理解し、そのデータ活用により戦略的に意思決定を行う能力が必要となる。</p> <p>本授業では、これらの一連の流れを、実際の事例について根拠となる理論に基づき検証し、成功・失敗事例の特徴や原因の把握を通じて、その重要性を理解する。</p>							
【テキスト】							
特に指定しない。必要な資料は授業内で配布。							
【成績評価】							
ディスカッションへの参画状況およびその内容の評価(50%)、授業レポート(50%)をもって総合的に評価する。							

授業科目名		持続可能な観光指標分析演習					
対象学生	1年	開講期間	2Q	単位数	2	授業形態	演習
担当教員	岡田 美奈子						
<p>【授業の概要】</p> <p>近年、SDGs、カーボンニュートラル、ゼロウェイストなど、よりサステナブルな経営のターゲットが設定される中、エビデンス/データベースの中長期的な目標設定、プランニングは、持続可能な政策において必須の知識、手法となってきた。特に世界基準によるベンチマーキングは、市場アクセス、ブランディングとしての有効な手段であり、経営の効率化、コスト削減、また従業員のモチベーションにもプラスの効果をもたらす。本演習では、持続可能な観光地域マネジメントにおける、持続可能な観光指標(Sustainable Tourism Indicator, STI)という実践ツールを利用しての課題抽出、目標設定、モニタリング、評価に関する知識、技術を習得する。特に、持続可能な観光世界基準GSTCの日本版として観光庁が開発したJSTS-Dを用い、その活用と実践方法を分析、現場での実践も取り入れ、効果的な地域マネジメントの実際を学ぶ。</p> <p>GSTC基準は、デスティネーション版と事業者版(ツアー/ホテル)があり、持続可能な観光の世界基準として各国で導入されている。観光庁が開発したJSTS-D(2020.6)はDMOや自治体、各種観光団体でも導入が奨励されており、それを主導する「サステナビリティコーディネーター」の役割が国内外でも注目されている。本演習で習得する知識・技術はコーディネーターの重要な役割の一つとなる。演習課題はJSTS-Dを用いての実際の観光地域、及び持続可能な観光商品の評価を含む。</p>							
<p>【授業計画】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 持続可能な観光～概念の歴史、発展 2. 持続可能な観光～世界のトレンド、日本の現状(地域、事業者) 3. エビデンスベースのマネジメント (**基準の詳細、事例、活用方法) 4. A 持続可能なマネジメント(1) マネジメント組織、ステークホルダー参画、負荷と変化の管理 5. A 持続可能なマネジメント(2) 6. B 経済のサステナビリティ(1) 地域経済への貢献、社会的ウェルビーイングと負荷 7. B 経済のサステナビリティ(2) 8. C 社会文化のサステナビリティ(1) 文化遺産の保護、文化的場所への訪問、市民アクセス 9. C 社会文化のサステナビリティ(2) 10. D環境のサステナビリティ(1) 自然遺産の保全、資源マネジメント、廃棄物・排出量管理 11. D環境のサステナビリティ(2) 12. FW: 観光地アセスメント(1) 地域資源、ステークホルダー、デスティネーションプロフィール 13. FW: 観光地アセスメント(2) 経済、社会文化、環境に関する課題の特定 14. FW: 観光地アセスメント(3) 指標による目標設定、ベンチマーク、モニタリング 15. まとめ: 持続可能な観光地域評価 							
<p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・持続可能な観光地域経営のツール「持続可能な観光指標」の理論と実践を学ぶ。 ・地域事例に基づき、観光地域の現状評価、課題設定、取組計画立案を行い、評価する。 							
<p>【テキスト】</p> <p>Spenceley, A. (ed). (2021). Handbook for Sustainable tourism practitioners. The essential toolbox. Routledge(抜粋)</p> <p>Tourism for SDGs (UNWTO) https://www.unwto.org/tourism4sdgs</p> <p>持続可能な観光ガイドライン(観光庁)</p> <p>https://www.mlit.go.jp/kankocho/content/001350849.pdf</p>							
<p>【成績評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・持続可能性の国際的課題に関するリサーチおよびプレゼンテーション内容 20% ・地域課題に関するプレゼンテーション内容 20% ・JSTS-Dに基づく地域評価レポート 60% 							

授業科目名	プロフェッショナルライティング I						
対象学生	2年	開講期間	1Q	単位数	1	授業形態	演習
担当教員	観光地域マネジメント専攻教員全員						
【授業の概要】							
<p>プロフェッショナルライティング I・II、観光地域プロジェクト I・II は、DMOなどの観光地域団体が抱えるリアルな課題に対して、キャンパスで学んだ知見をもとに、教員とメンターのチーム指導のもと学生がプロジェクト計画を立て、計2ヶ月間、観光地域でリアルなプロジェクトを実施し、報告書にまとめ実践論文を発表する、実践的な一連の学びである。この学びを通じて学生が確実にディプロマ・ポリシーで掲げた能力を習得できるよう、学生それぞれに2人の指導教員、3人の実務家教員、受け入れ先のメンターがチームを作って指導する体制を用意する。</p> <p>プロフェッショナルライティング I では、1年次第4クォーターにおける実習地域の決定を受け、実際の受け入れ先からあった募集要項に基づいたプロジェクト計画書の作成を学び、現地と連携しながら業務レベルの緻密な計画書を仕上げしていく。</p>							
【授業計画】							
<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス、当該観光地の現状と課題の把握 2. プロジェクトの目的 3. プロジェクトの範囲とゴール 4. プロジェクトのコスト 5. プロジェクトのスケジュール 6. プロジェクトの体制と品質マネジメント 7. プロジェクトのコミュニケーションとリスク対策 8. 計画書の発表 							
【到達目標】							
<ul style="list-style-type: none"> ・ 実地において地域課題を解決するプロジェクトの計画・実施・評価の過程において、現地のステークホルダーとの関係性を通じて実践知を獲得する。また、他の受講者や担当教員との議論を深めることによって、観光地域マネジメントを現実に進めていく上での課題を理解し、解決策を方向づけていく能力を身につける。 ・ プロフェッショナルライティング I においては、現実の観光地域で実行可能な精緻なプロジェクト計画書の作成をとおり、観光地域マネジメントの計画能力を身につける。 							
【テキスト】							
特に指定しない。授業内で資料を配付するほか、参考書等については必要に応じ指示する。							
【成績評価】							
授業の準備状況・発言等の参加状況（40%）、完成した計画書のプレゼンテーション内容（60%）をもって総合的に評価する。							

授業科目名	観光地域プロジェクト I						
対象学生	2年	開講期間	2Q	単位数	4	授業形態	実習、演習
担当教員	観光地域マネジメント専攻教員全員						
【授業の概要】							
<p>プロフェッショナルライティング I・II、観光地域プロジェクト I・II は、DMOなどの観光地域団体が抱えるリアルな課題に対して、キャンパスで学んだ知見をもとに、教員とメンターのチーム指導のもと学生がプロジェクト計画を立て、計2ヶ月間、観光地域でリアルなプロジェクトを実施し、報告書にまとめ実践論文を発表する、実践的な一連の学びである。この学びを通じて学生が確実にディプロマ・ポリシーで掲げた能力を習得できるよう、学生それぞれに2人の指導教員、3人の実務家教員、受け入れ先のメンターがチームを作って指導する体制を用意する。</p> <p>観光地域プロジェクト I では、1ヶ月程度（4週間、週4日間×8時間）の実地研修を行い、プロフェッショナルライティング I で作成した計画書が実際に動くかを試行し、動かない場合には修正を加えながら、プロジェクトを軌道に乗せ、この学びを通じてプロジェクトマネジメントにおける課題を発見することを目標にする。</p>							
【授業計画】							
<p>4週間の実習（1週間あたり4日間×8時間）に加え、ハイブリッド形式で実施する毎週末の演習を基本とする。</p> <p>1週目、観光地域でプロジェクトを実施（実習）。 プロジェクトの準備およびディスカッション（演習）。</p> <p>2週目、観光地域でプロジェクトを実施（実習）。 プロジェクトの進捗状況の報告とディスカッション（演習）。</p> <p>3週目、観光地域でプロジェクトを実施（実習）。 プロジェクトの進捗状況の報告および課題解決に向けたディスカッション（演習）。</p> <p>4週目、観光地域でプロジェクトを実施（実習）。 観光地域プロジェクト II 報告会（演習）。</p>							
【到達目標】							
<ul style="list-style-type: none"> ・実地において地域課題を解決するプロジェクトの計画・実施・評価の過程において、現地のステークホルダーとの関係性を通じて実践知を獲得する。また、他の受講者や担当教員との議論を深めることによって、観光地域マネジメントを現実に進めていく上での課題を理解し、解決策を方向づけていく能力を身につける。 ・観光地域プロジェクト I においては、机上で作成した計画書通りにプロジェクトが動くかを確認しながらプロジェクトマネジメントにおける課題を発見することを通じて、観光地域マネジメントの実施における実践知を身につける。 							
【テキスト】							
特に指定しない。授業内で資料を配付するほか、参考書等については必要に応じ指示する。							
【成績評価】							
<p>現地での実習の活動状況（50%）、演習への参加状況・発言状況（20%）、プロジェクト報告会でのプレゼンテーション内容（30%）をもとに総合的に評価する。</p>							

授業科目名	観光地域プロジェクトⅡ						
対象学生	2年	開講期間	3Q	単位数	4	授業形態	実習、演習
担当教員	観光地域マネジメント専攻教員全員						
【授業の概要】							
<p>プロフェッショナルライティングⅠ・Ⅱ、観光地域プロジェクトⅠ・Ⅱは、DMOなどの観光地域団体が抱えるリアルな課題に対して、キャンパスで学んだ知見をもとに、教員とメンターのチーム指導のもと学生がプロジェクト計画を立て、計2ヶ月間、観光地域でリアルなプロジェクトを実施し、報告書にまとめ実践論文を発表する、実践的な一連の学びである。この学びを通じて学生が確実にディプロマ・ポリシーで掲げた能力を習得できるよう、学生それぞれに2人の指導教員、3人の実務家教員、受け入れ先のメンターがチームを作って指導する体制を用意する。</p> <p>観光地域プロジェクトⅡでは、1ヶ月程度（4週間、週4日間×8時間）の現地研修を行い、観光地域プロジェクトⅠの活動を受けて、プロジェクトの成果をまとめながら効果検証を行い、そこから地域課題・社会課題を深く理解することを目標とする。</p>							
【授業計画】							
<p>4週間の実習（1週間あたり4日間×8時間）に加え、ハイブリッド形式で実施する毎週末の演習を基本とする。</p> <p>1週目、観光地域でプロジェクトを実施（実習）。 プロジェクトの効果検証のためのディスカッション（演習）。</p> <p>2週目、観光地域でプロジェクトを実施（実習）。 プロジェクトの成果と効果検証のためのディスカッション（演習）。</p> <p>3週目、観光地域でプロジェクトを実施（実習）。 見出された地域課題・社会課題のディスカッション（演習）。</p> <p>4週目、観光地域でプロジェクトを実施（実習）。 観光地域プロジェクトⅡ報告会（演習）。</p>							
【到達目標】							
<ul style="list-style-type: none"> ・ 実地において地域課題を解決するプロジェクトの計画・実施・評価の過程において、現地のステークホルダーとの関係性を通じて実践知を獲得する。また、他の受講者や担当教員との議論を深めることによって、観光地域マネジメントを現実に進めていく上での課題を理解し、解決策を方向づけていく能力を身につける。 ・ 観光地域プロジェクトⅡにおいては、プロジェクトの成果の確認と効果検証を行いながら地域課題・社会課題についての深い理解を身につける。 							
【テキスト】							
特に指定しない。授業内で資料を配付するほか、参考書等については必要に応じ指示する。							
【成績評価】							
<p>現地での実習の活動状況（50%）、演習への参加状況・発言状況（20%）、プロジェクト報告会でのプレゼンテーション内容（30%）をもとに総合的に評価する。</p>							

授業科目名	プロフェッショナルライティングⅡ						
対象学生	2年	開講期間	4Q	単位数	1	授業形態	演習
担当教員	観光地域マネジメント専攻教員全員						
【授業の概要】							
<p>プロフェッショナルライティングⅠ・Ⅱ、観光地域プロジェクトⅠ・Ⅱは、DMOなどの観光地域団体が抱えるリアルな課題に対して、キャンパスで学んだ知見をもとに、教員とメンターのチーム指導のもと学生がプロジェクト計画を立て、計2ヶ月間、観光地域でリアルなプロジェクトを実施し、報告書にまとめ実践論文を発表する、実践的な一連の学びである。この学びを通じて学生が確実にディプロマ・ポリシーで掲げた能力を習得できるよう、学生それぞれに2人の指導教員、3人の実務家教員、受け入れ先のメンターがチームを作って指導する体制を用意する。</p> <p>プロフェッショナルライティングⅡでは、観光地域プロジェクトⅠおよびⅡにおける実地研修の成果を、完了報告書と実習の受け入れ先に提出するプロジェクト報告書にまとめあげ、実施したプロジェクトの評価・検討を行う。</p> <p>また、報告書の作成と並行して、外部への公表を前提とした実践論文の作成も行う。</p>							
【授業計画】							
<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス、報告書、実践論文の書き方（合同授業） 2. 報告書のための個人指導（1） 3. 報告書のための個人指導（2） 4. 報告書のための個人指導（3） 5. 中間発表（合同授業） 6. 実践論文のための個人指導（1） 7. 実践論文のための個人指導（2） 8. 専門職大学院プロジェクト報告会 							
【到達目標】							
<p>実地において地域課題を解決するプロジェクトの計画・実施・評価の過程において、現地のステークホルダーとの関係性を通じて実践知を獲得する。また、他の受講者や担当教員との議論を深めることによって、観光地域マネジメントを現実に進めていく上での課題を理解し、解決策を方向づけていく能力を身につける。</p> <p>プロフェッショナルライティングⅡにおいては、実施したプロジェクトの成果から完了報告書、プロジェクト報告書、実践論文をまとめることで現地で獲得した実践知を言語化し、より高いレベルにおける課題の理解と解決策の方向づけの能力を身につける。</p>							
【テキスト】							
特に指定しない。授業内で資料を配付するほか、参考書等については必要に応じ指示する。							
【成績評価】							
授業の準備状況・発言等の参加状況（40%）、完成した報告書のプレゼンテーション内容（60%）をもって総合的に評価する。							